

營業セント欲スルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主並ニ株手形ノコ

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閲スルコトヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラザル間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヨナスコトヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルキハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノコ

第十五條 丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

十六年第十八號
號布達(千八百七十九)同
年農第六號告

示(千八百八十)參看

仲買人ハ他人ノ委托ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ十三年第十八號布告

第十六條 株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ同上

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルベシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サハルベシ

第四章 役員ノコ

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧シ其住所姓名年齡等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコトヲ得同上

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スベシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第三部 第七編

第三章

第三款

第貳節

第貳項

第廿三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スベシ

第五章 一般ノ規程

第廿四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第廿五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルベシ

第廿六條 十四年第廿八號
布告ヲ以テ刪除

第廿七條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經テ
ル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第廿九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得十三年第五十七號
布告但書追加

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書

ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其實ニ任スヘシ十三年
布告ヲ以テ全條改正十五年六
十四號布告ヲ以テ又全條改正ス

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章 賣買取引ノ

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證

據金増證據金等ヲ差入シムルヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正

第七章 手数料ノ一

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ賣買雙方ヨリ其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヲ得ヘシ

第八章 検査ノ一

第四十三條 農商務卿ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルヲアルベシ

第九章 帖簿ノ一

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ届出ツベシ

第十章 諸報告ノ一

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ大藏卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ一

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムベシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラズ千圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科スベシ

第四十九條 官員検査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サハル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ同上

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス同 上 布告ヲ以テ 本條ヲ追加ス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

十一年第三十
號布告(千二
百八十七)參
看

○第三項 株式取引所

第千八百七十 明治十三年九月十三日大藏省甲第百貳號布達

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第拾四號ヲ以テ及布達候處詮議ノ次第有之横濱取引所ノ儀自今横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式買賣差許候條爲心得此旨布達候事

第千八百七十一 明治十六年七月三十日第貳拾四號布達

明治十一年^五月^五日第^八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一箇所差許ス右布達候事

第千八百七十二 明治十七年七月三日第拾七號布達

明治十一年^五月^五日第^八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般京都府下京都ニ於テ一箇所差許ス右布達候事

○第四項 金銀貨及洋銀取引

第千八百七十三 明治十二年二月十三日第^八號布告

從來神奈川縣下横濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之候處右ハ一切禁止候條自今洋銀取引所設立營業致シ度者ハ昨十一年^五月^五日第^八號布告株式取引所條例ニ照準シ農商務卿へ可願出此旨布告候事^{十三}年^第廿^號布告ヲ以テ但書ヲ除キ十四年^第四^號布告ヲ以テ(大藏卿)ヲ(農商務卿)ト改メ

附錄 明治十三年四月十五日第貳拾號布告

十三年第廿一號布告(二千二百三十六)參看

第八號布告ハ(千八百六十九)ニ掲出ス

第八號布告ハ(千八百六十九)ニ掲出ス

明治十一年^五月^五日第^八號布告株式取引所條例中左ノ通改正加除シ又明治十二年^二月^二日第^八號布告但書ヲ廢ス金銀買賣取引ノ證據金モ株式取引所條例ニ遵フヘシ此旨布告候事^{條例}中^{改正}ノ^{條件}各^其本^條ニ^之ヲ^掲ク

第千八百七十四 明治十二年二月十八日大藏省甲第貳拾貳號布達

今般第^八號ヲ以テ公布相成候洋銀取引所設立ノ儀ハ當分横濱港ニ於テ一ヶ所ニ相限リ候條此旨布達候事

第千八百七十五 明治十二年九月二十二日第^三拾^七號布告

東京并大坂株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

第千八百七十六 明治十二年九月二十二日第^三拾^八號布告

本年^二月^二日第^八號布告ニ據リ設立シタル横濱洋銀取引所ノ儀自今横濱取引所ト改稱シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

第千八百七十七 明治十六年七月三十日第貳拾五號布達

神戸株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引ヲ差許ス右布達候事

第千八百七十八 明治十六年八月六日第貳拾七號布告

東京大阪横濱神戸株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内二箇月以内ノ定期取引差許ス但其取引ニ係ル規程ハ農商務卿ノ認許ヲ受ク可シ右奉 勅旨布告候事

十三年第廿一號布告(二千二百三十六)參看

○第五項 米商會所株式取引所仲買人認許料及認許規程并人員ノ事

第千八百七十九 明治十六年八月六日第貳拾八號布達

米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三拾圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ

右布達候事

第千八百八十 明治十六年八月十八日農商務省第六號告示

米商會所及株式取引所仲買人認許料之儀本年八月第廿八號ヲ以布達相成候ニ付テハ認許規程左之通相定候條此旨告示候事

米商會所 株式取引所 仲買人認許規程

第一項 米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人ハ營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ

第二項 仲買人ニ認許ヲ與ヘタルキハ左ノ雛形ノ如キ認許証ヲ下付スヘシ

切 押

第何號

米商會所仲買人認許之證

屬籍

住所

切 押

第何號

株式仲買人認許之證

屬籍

住所

氏 名

右某米商會所營業年限中仲買人タルヲ認許シ此證狀ヲ下附スルモノ也

年月日 農商務卿氏名 印

氏 名

右某株式取引所營業年限中株式仲買人タルヲ認許シ此證狀ヲ下附スルモノ也

年月日 農商務卿氏名 印

切 押

第何號

金銀貨仲買人認許之證

屬籍

住所

氏 名

右某株式取引所營業年限中金銀貨仲買人タルヲ認許シ此證狀ヲ下附スルモノ也

十五年第六十五號布告(千二百八十八) 參看

年月日 農商務卿氏名 印

- 第三項 米商會所仲買人へ認許証ヲ下付スルキハ認許料ヲ地方廳へ納付シ地方廳ヨリ農商務省へ上納スヘシ
- 第四項 株式仲買人及金銀貨仲買人へ認許証ヲ下付スルキハ認許料ヲ其株式取引所へ納付シ株式取引所ヨリ農商務省へ上納スヘシ
- 第五項 従前會所及取引所ノ定款ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許証下付セサルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ
- 第六項 仲買人左之場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許証ヲ農商務省へ返納スヘシ
但本人執行成リ難キ場合ニ於テハ親戚又ハ組合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第一 廢業シタルキ
- 第二 死亡シタルキ
- 第三 營業禁止ノ命ヲ受タルキ
- 第四 納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタルキ
- 第五 會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受タルキ
- 第六 身代限リノ處分ヲ受タルキ
- 第七項 認許證若シ盜火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタルキハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許

證ノ下附ヲ請願スヘシ

- 第八項 氏名ヲ改メタルキハ認許證ヲ農商務省ニ差出シ書替ヲ請願スヘシ
- 第九項 明治十六年八月十八日農商務省第七號告示
米商會所株式取引所仲買人員之儀米商會所ハ東京八十名大坂六十名其他ハ一箇所三十名株式取引所ハ東京横濱ハ一箇所七十名大坂神戸ハ一箇所六十名ヲ以て定限トシ其餘ハ自今不及認許候條此旨告示候事
- 第十項 明治十七年九月廿七日農商務省第七號告示
京都株式取引所仲買人員ハ六拾名ヲ以て定限トス此旨告示候事

第六項 米商會所株式取引所賣買營業取締

第千八百八十二 明治十一年一月十七日大藏省乙第貳號_{府縣}へ達
米商會所並同仲買人共ニ於テ支社分店又ハ出張所等取設ケ其業務取扱候者モ有之哉ノ趣右ハ決シテ不相成筈ニ候條若シ右條ノ向有之候ハ、差止可申候此旨相達候事

第千八百八十四 明治十三年三月十三日大藏省甲第三拾貳號布達
米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第五號公布ノ趣有之該條例ニ遵ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月并ニ現場_{限月賣買}起ル現場_{現場}ヲ云_リ賣買取引ハ米商會所内ニ限リ差許サレ候儀ニテ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ會所外ニ於テハ仲買人タリ_ヒ其業務取扱候儀一切不相成筈ニ候條心得違無之様可致

十三年第廿一
號布告(二千
二百三十六)
十六年第四號
布告(二千二
百三十七)參
看

此旨布達候事 十三年同省甲第三十八號布達ヲ以テ(儀ニテ)ノ下五字ヲ删除ス

第千八百八十五 明治十五年八月十九日第四拾六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○第四款 水陸運

○第壹節 郵便

○第壹項 郵便條例

第千八百八十六 明治十五年十二月十六日第五拾九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙、營業品ノ見本及雛形

附録

明治十六年十一月九日第三拾六號布達

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ

本紙ノ重量ニ超過シタル附録ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

右布達候事

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 裁斷又ハ破却シタルモノ

一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙 配達又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一 一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノノ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除クハ一個ノ重量二百目ニ超過スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、學化スヘキ物、動物、植物、及鋒刃器、硝子器、陶器、等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ二匁未滿 一錢

第二種郵便物 一葉 一錢

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 二錢

二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 二錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ八匁未滿亦同シ 二錢

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書帶紙ノ稅額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條 郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收

スヘシ

第二十二條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條 未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手數料并別配達料納濟ノ証トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以

下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條 郵便切手并封皮葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其理由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬郡區役所并以上各廳派出官吏相

互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ

派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモ

ノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラヌ六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ

於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ

捺セル受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ

記シタル受取証書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハヌ

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘ

シ肩書寄宿所ノ類以アルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市

外別配達料解船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ

得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ

受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其

配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達ス

ル爲メ其家ニ留メ置クモ日數二十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ

出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハヌ或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其

差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ

其委託ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之ヲ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遞達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フ

ノ責ニ任セス

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載

シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代

理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキ

ハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時

ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他

ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮

帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其

儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速

ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス

一市内郵便局別配達

一市外郵便局別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナ

スヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハス

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貨與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セザルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ税ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

第一百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第一百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第一百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第一百十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第一百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ受授スヘシ

第一百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第一百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第一百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ

應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第一百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴收スヘシ

第一百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞

送貨及前後ノ配達賃ヲ徴收スヘシ

第一百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第一百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實証アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ
沒書中貨幣或ハ諸証書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第二十六條 沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第二十七條 沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸証書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ但驛遞局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第三十一條 爲替証書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ掲示スヘシ

第三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替証書ヲ受領スヘシ

第三十五條 爲替証書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第二百二十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス
 第二百二十七條 爲替受取人其爲替証書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナル
 トキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其証書
 ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル証書ヲ受クルヲ得
 第二百二十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替証書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ証人ヲ
 要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
 第二百二十九條 爲替受取人ハ其爲替証書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返
 戻ヲ受ルトキ亦同シ
 第二百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ
 得ス
 第四百一十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調
 印シ且代人ハ第二百二十九條ノ手續ヲナスヘシ
 第四百一十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替証書ノ裏面ニ官衙社
 寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百二十九條ノ手續ヲナスヘシ
 第四百一十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其
 所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第四百一十一條ニ依ル能ハサルトキハ第
 百四十二條ニ依ルヲ得
 第四百一十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クル

トキモ第四百一十二條第四百一十三條ノ手續ニ依ルヘシ
 第四百一十五條 爲替証書ノ効用ハ其証書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス
 第四百一十六條 効用ヲ失ヒタル爲替証書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ
 請求スヘシ
 第四百一十七條 爲替証書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ
 驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
 其公告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ爲替証書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料
 トシテ徴收スヘシ
 其公告ハ日ヨリ二ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替証書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ沒
 入スヘシ
 第四百一十八條 爲替証書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ
 証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ証書ヲ請求スヘシ
 第四百一十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ証書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ証書ヲ交付スルハ其原証書ニ
 對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ
 第四百二十條 爲替証書ノ書換又ハ再度ノ証書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘ
 シ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス
 爲替証書ノ書換及再度ノ証書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス
 第四百二十一條 再度ノ爲替証書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替証書ヲ見出シタルトキハ

之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第百五十三條 爲替証書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡

ヲ延引スヘシ

第百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任

セス

第百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞

局ハ其實ニ任セス

第十三章 驛遞局貯金

第百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條 一人一度ノ預ケ金額八十鎊以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

一日ノ預ケ金額ハ五十圓以下トス

第百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙

ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ

且貯金預所ニ揭示スヘシ但十鎊未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原

簿ニ登記スヘシ

第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻月トナスヘシ但驛遞局ヨリ拂戻証書ヲ發シ

タル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ

第百六十五條 始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載

調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印

シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受

ケ其通帳ヲ所持スヘシ

第百六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第百六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金

預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第百六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナス

ヲ得

第百七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受

領スルヲ得ス

第百七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其

通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

第七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日内ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額並年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未滿

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告書ヲ出サハルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノハ其實ニ任セズ

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金金額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取証書ヲ受領スヘシ

第七十八條 第七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻証書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經由テ之ヲ返付スヘシ

第八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻証書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八十條ノ手續ヲナスヘシ

第八十二條 拂戻金ハ其拂戻証書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其証書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未滿

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ証人ヲ立テ相續人タルヲ証スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシハ氏名ノミ連記

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシハ氏名ノミ連記

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ証人ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルトキハ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ証明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期日内ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻證書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル證書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書

三 書籍各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十二ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」凡曲尺六寸幅十「センチメートル」凡三寸三厘厚五「センチメートル」凡一寸六厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

ル「凡三寸三厘」凡三寸三厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六分ニ超

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外増手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手數料及増手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノハ外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」(「フランク」ハ若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ) 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額
一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額
第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三

十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條^{第二百二十二條}第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十條及第一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十二條第六十六條^{第二百二十二條}第七十三條第九十九條第一百條第一百零一條第一百零四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ
第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有税ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二

年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料貯船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日

内ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料貯船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサハル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替証書ヲ振出シ又ハ爲替証書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁

鋼ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナシ又
 ハ拂戻証書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ
 第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁
 鋼ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百四十四條 郵便物ニ押用セサル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五
 錢以下ノ科料ニ處ス
 第二百四十六條 郵便函郵便行發其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以
 下ノ重禁鋼ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遅緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以
 下ノ科料ニ處ス
 第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ
 サルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十
 二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ
 監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○第貳項 郵便線路里程表

[第千八百八十七] 明治十四年九月十四日第七拾九號官省院使 廳府縣へ達
 東京ヨリ各府縣へノ郵便線路里程表明治九年三第二十四號ヲ以テ相達置候處爾後道路變換
 里程伸縮相生シ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相達候事

別表

東京ヨリ各府縣へノ實測里程一覽表

府縣名	元標地名	里	府縣名	元標地名	里
東京	日本橋	東海道通リ 一三〇ノ二四ノ四〇多	福島	上町	陸羽街道通リ 七〇ノ三〇〇五多
京都	三條大橋	京都ヲ經テ 一四三ノ二六ノ二多	岩手	盛岡 紺屋町	仙臺通リ 一四〇ノ一九ノ四六多
大坂	高麗橋	京都ヲ經テ 一四三ノ二六ノ二多	青森	米町	米澤通リ 一九一ノ二七ノ五〇多
神奈川	本町	神奈川ヲ經テ 八ノ一七ノ三三多	山形	七日町	全 九四ノ三四ノ五二多
兵庫	市場町	京都ヲ經テ 一五三ノ二七ノ二四多	秋田	久保田	全 一五〇ノ一ノ五一多
長崎	外浦町	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三四五ノ三三ノ二一多	福井	大町	名古屋及ヒ番場ヲ經テ 一四〇ノ三四ノ〇三多
		三國通リ 八九ノ一六ノ〇四多		照手上所	

ノ里位ク丁位多間位以下尺位

宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	榎木	群馬	茨城	千葉	埼玉	新潟
大町	大門町	白木町	上京町	大津	甲府	鐵砲町	津	倭町	前橋	水戸市	本町	浦和	本町
陸羽街道福島ヲ經テ 九二ノ二九ヲ三九シ	中山道追分ヲ經テ 五八ノ三三ヲ五九シ	名古屋ヲ經テ 一〇三ノ二六ヲ三八シ	東海道通リ 一〇七ノ三四ヲ五五シ	東海道通リ 一〇七ノ三四ヲ五五シ	甲州街道通リ 三五ノ一九ヲ三四シ	東海道通リ 四六ノ一〇ヲ二五シ	熱田ヲ經テ 九四ノ〇六ヲ一三シ	四日市ヲ經テ 一一ノ一〇ヲ一五シ	小山ヲ經テ 二三ノ一九ヲ〇八シ	熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八ノ〇六ヲ〇五シ	土浦通リ 二九ノ三二ヲ一六シ	市川ヲ經テ 一〇ノ一四ヲ五二シ	高田ヲ經テ 一〇八ノ三〇ヲ五一シ
鹿兒島	熊本	大分	福岡	高知	愛媛	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	島根	石川	
山下町	新町	額田橋	橋口町	本町	松山	西横町	京橋	大市町	細工町	橋本町	松江	尾張町	
小倉及ヒ熊本ヲ經テ 三八ノ二六ヲ〇二シ	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三ノ二八ヲ一〇シ	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三三ノ〇二ヲ一〇シ	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三三ノ〇二ヲ一〇シ	全	下津井及ヒ九龍ヲ經テ 二四ノ八ノ三三ヲ一四シ	明石ヲ經テ淡路通リ 一八ノ二ノ三三ヲ五三シ	大坂ヲ經テ 一六ノ一〇ヲ六二ヲ一四シ	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六ノ九ノ一六ヲ四三シ	全	京都及ヒ姫路ヲ經テ 一八ノ九ノ二四ヲ一五シ	京都及ヒ津山ヲ經テ 二二ノ三ノ三二ヲ五五シ	名古屋及ヒ福井ヲ經テ 一六ノ三ノ一四ヲ二六シ	高田ヲ經テ 一〇七ノ二二ヲ一三シ

明治十四年五月改正

○第三項 外國郵便送致時限并朝鮮國郵便稅額

第千八百八十八 明治八年九月二十日第四百拾壹號布告

驛遞寮及開港地郵便局ヨリ廣告スル外國へ發航ノ郵便船ヲ以テ送致スヘキ郵便物ハ其廣告セル時限迄ニ屹度差出スヘシ若シ其時限後ニ至リテモ猶達シ得ヘキノ時間アレハ之ヲ其局ニ受取ト雖モ定稅ノ一倍ヲ納メシムヘク此旨布告候事

第千八百八十九 明治九年十一月二十二日第四百拾四號布告

朝鮮國釜山浦へノ郵便物ハ當分本邦内地同稅ノ稅額ニ相定候條此旨布告候事

○第貳節 通運會社

第千八百九十 明治八年四月三十日內務省甲第七號布達

諸道各驛ニ於ケル陸運會社ノ儀ハ多クハ官ノ誘勸ヲ以結社候ヨリ往々私會ノ體裁ヲ失シ不都合ニ付本年五月三十一日限リ總テ解社可申付此旨布達候事

但本文解社ノ後ハ驛村ニ不拘其地ノ都合ニ因リ人馬繼立ノ稼業致度旨願出候ハ、其管廳於テ調査ノ上允許可致尤賃錢ノ儀ハ物價ノ昂低道路難易ニ因リ時々變更可有之候ヘハ豫其制限相立且通常ノ額ヲ査定可致事

第千八百九十一 明治八年五月五日內務省乙第五拾五號 府へ達

今般各驛陸運會社解散申付候ニ付テハ平常御用通行ノ官員及御用物繼立人馬ノ儀ハ各自其都合ニ付任ハ勿論ニ候ヘハ內國通運會社ヨリ別紙ノ通願出允許候ニ付爲心得相達候條繼立

ノ便宜ニ依リテハ各驛ニ於ケル同社ノ出張所分社及傳送所等へ申入人馬ノ供給可爲取扱此旨相達候事

但繼立申入候節ハ相對穩當ヲ旨トシ決シテ威權ケ間敷儀或ハ粗暴ノ舉動無之様篤ク夫々へ可相達事

別紙之略

第千八百九十二 明治九年五月廿六日内務省乙第六拾七號府達

金子入書狀及郵便諸費遞送ヲ命シ候内國通運會社宰領之者へ賊難爲防禦短銃提携差許候條爲心得此旨相達候事

第千八百九十三 明治十二年十月九日内務省乙第四拾四號府達

各驛人馬繼立所之儀ハ去ル明治八年五月中乙第五十五號ヲ以テ相達候通リ舊陸運會社解散後内國通運會社出願之旨モ有之願意允許候處自今同社人馬繼立所ハ興廢共同社ノ都合ニ任候條爲心得此旨相達候事

○第三節 船舶

○第一項 船籍

第千八百九十四 明治十二年二月十日第五號布告

自今西洋形船ハ總テ沿海府縣ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スヘシ十三年第十號布告ヲ以テ(西洋形船)ト改ム

但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ
右布告候事

○第二項 西洋形船及日本形商船ノ事

第千八百九十五 明治三年正月廿七日布告

西洋形船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

別冊

西洋形船規則

西洋形船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除ノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形船ニ至迄總テ民部省中通商司ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形船所持ノモノ或ハ新規買求候モノハ民部省外務省連印ノ免許狀可申請尤別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心得候一體日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命荷物等ノ損傷不少詰リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙ノ通御規則御取極相成候儀ニ付津々浦々於テ此旨屹度可相守候事十三年第十號布告ヲ以テ(西洋形商船)ト改ム
右之通御沙汰候事

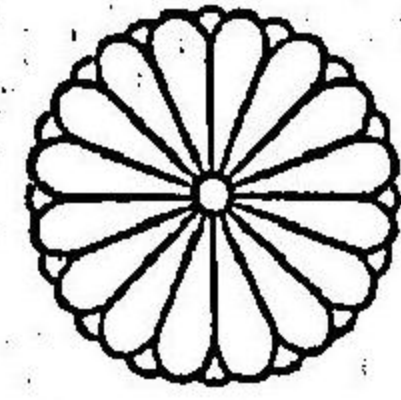
午正月

太 政 官

免狀案 十二年第十九號
布告ヲ以テ改正

原書寸法横曲尺五寸縦五寸八分

千二十四



西 洋 形 船 免 狀 簿 登

本船 番號	信號 符號	船名	定額 本船 總噸	船主 船類	甲 板 層 數	機 器 種 類	本 船 名	工 務 所 名	造 年 月	造 地 名	船 身 形 狀	船 身 材 料	船 身 尺 寸
													母噸 甲板 最大 長さ 内注 リ 船 底 中 央 ノ 内 板 ニ 至 ル 深 サ
													母噸 甲板 最大 長さ 内注 リ 船 底 中 央 ノ 内 板 ニ 至 ル 深 サ
													母噸 甲板 最大 長さ 内注 リ 船 底 中 央 ノ 内 板 ニ 至 ル 深 サ

十四年第四十三號布告ニ依リ(帝國)ノ下
(內務省)トアルヲ(農商務省)ト改ム

母噸 甲板 最大 長さ
内注リ 船底 中央ノ 内板ニ至ル 深サ

噸數

母噸 甲板 下部ノ 噸數
甲板 上部ノ 噸數(若シアレハ)即チ
船 尾 室
船 尾 室
其他ノ 場所(若シアレハ)

總計

乘組 室ノ 噸數
乘組 人 常用 室ノ 噸數

客 艙 噸數

機關 ノ 噸數

舁 馬 力

右ニ 記載 スル 要件ヲ 查明シ 噸數 測定 規則ニ 遵ヒ
其 尺 度 噸數ヲ 測定シ 此 登 簿 船 免 狀ヲ 下 付 スル 者
也

明治 年 月 日 大日本 帝國 農 商務 省

附錄

明治十四年二月十七日第拾貳號布告

明治十二年五月第拾九號布告西洋形船免狀ハ自今蒸氣船ハ拾噸風帆船ハ貳拾噸以下及ヒ湖川港灣ヲ限リ運轉スルモノハ其船免狀ヲ受有スルニ及ハス此旨布告候事

規則

西洋形船買入度者ハ其旨開港場運上所へ可願出其上船ノ善惡漸古檢閲ノ上免許差遣可申事

一 御國旗之事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬ノ將舟ニ至迄必可揚置事

一 每朝西洋時規第八字ニ引揚ケケ方ハ日沒迄ヲ限引卸スヘキ事

但右御國旗引揚無之節ハ海賊船ノ取扱請候テモ申譯ナキ事萬國普通ノ公法タル事

一 御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝ノ節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日ノ節改正ニ付左

一 御軍艦へ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降致禮義ヲナスヘキ事

一夜間ハ旗章ト引替ニ燈明可引揚燈明ハ青赤白ノ三坐ヲ設ケ航海中赤ハ左舷青ハ右舷ニ點火シ白ハ前櫓頂遠方ヨリ見留易キ所ニ揚置燈明消ヘサル様可致事

一 船ノ込合タル節並風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突當ラザル様可致右ハ日本船タリ共同様ナレトモ外國船ハ別テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スヘシ

一 貿易港碇泊中荷物陸揚船積共運上所へ願立免許狀ヲ受出入可致事

第三部 第七編 第三章 第四款 第二節 第貳項

千二十五

但手數銀差出ニ不及候事

一貿易港於テ荷物ノ取引致シ候ハ、其旨通商司へ可相届事

一航海中ハ兼テ帳面用意致置開港場ハ不及申諸湊へ入津ノ節ハ十二時西洋ノ二ノ間ニ其所ノ運上所又ハ湊役所へ届出檢印可請出帆ノ節同斷ノ事八年第四十號布告ヲ以テ次ノ十項ヲ廢ス

右檢印ノ式如左

何船
何月何日入港
何港
運上所
又ハ
何港
役所

何船何港
出帆何月何日
何港
運上所
又ハ
何港
役所

右出入檢印請候節手數銀相納ルニ不及事

一西洋形船並在來日本商船トモ積荷ノ總數品物ノ名並其送り先ヲ認通商司並運上所へ可差出尤其港ヨリ陸揚又ハ船積スヘキ品物ハ一々相届可申事

一諸港へ着船ノ節湊役人船改ノタメ出張致引續キ爲取締乘組居候事

但船中於テ聊ノ品タリ共仕向ケ間敷儀一切不相成事

一船中乗組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地へ相當ノ葬禮可取行事

一大砲小銃玉藥類ハ積込陸揚トモ其港運上所或ハ役所ノ免許ヲ乞フヘキ事

一海賊防禦其外ノ用意ノタメ相當ノ銃器備置候儀ハ若シカラス尤兼而挺數等ノ免許狀民部省ヨリ請取置ヘキ事

一滯船入費ハ一噸ニ付一日金二朱ト被定置候間商賣向ハ勿論假令官府ノ御用タリ共船ノ進退自由ヲ得ス雜費相懸リ候節ハ其償右ノ噸數ヨリ割出シ取立候テ不苦候事

但諸港於テ威權ケ間敷振舞及ヒ無故出帆差留候節ハ右ノ償可申立事

一免許ナク外國へ通船ノ儀不相成候萬一相犯スニ於テハ船並荷物共取上屹度御咎可有之事

一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役ノ儀不苦事

但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添其所ノ役所へ相届官許ノ證據

差出可申事

一困難ト見請候船ハ内外國人ノ差別ナク救助致シ可遣事

但外國人ハ開港場ノ役所へ可引渡尤右ニ付入費等有之節ハ開港場運上所ヨリ相當御下

ケ金有之ヘキ事

一外國人へ貸遣候節ハ約定書ヲ以テ通商司へ届出候得ハ直ニ運上所へ掛合ノ上其國々旗章

引揚候儀御差許可相成候事

一外國人ト申合近海於テ密商致シ候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背候儀取計候節ハ其船取揚屹度御咎可有之事

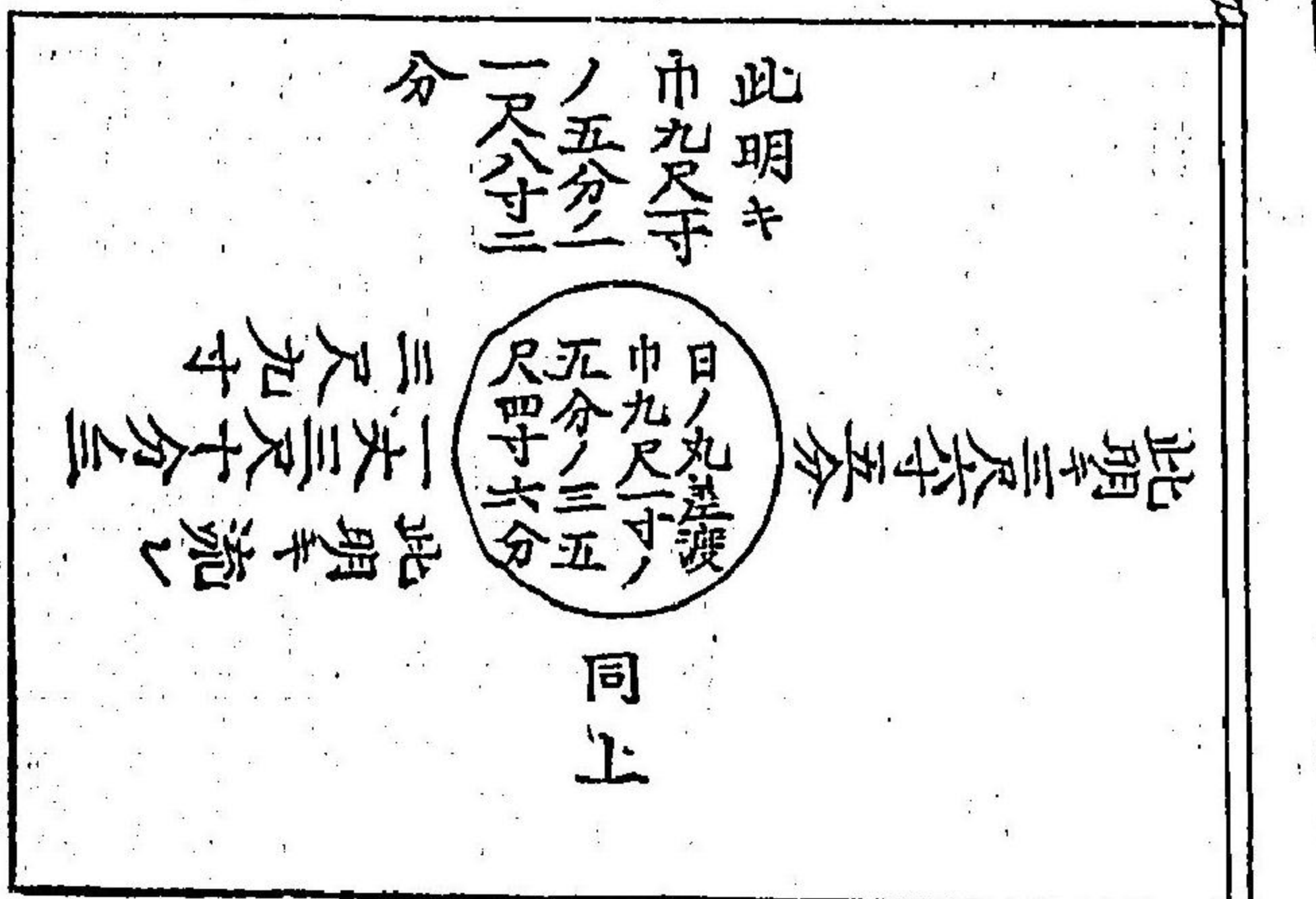
一商船ノ記號ハ別紙圖面ノ通製造致シ御國旗同様可取扱事八年第百八十一號ヲ以テ商船記號ヲ廢シ掲揚ニ不及旨布告ニ付別紙ハ之ヲ除ク又十六年第十三號布告ヲ以テ船稅規則發行ニ付次項ハ但書共消滅ス

右之通相定候條嚴重ニ可相守事

明治二巳年十二月

祝日可用分
大旗之圖

凡テ曲尺



平常可用分
中旗一丈
流七尺
日ノ丸差渡四尺二寸
同先ノ明キ三尺
同乳ノ方明キ二尺八寸
風雨ノ節可用分
小旗六尺
流四尺二寸
日ノ丸差渡二尺五寸二分
同先ノ明キ一尺八寸
同乳ノ方明キ一尺六寸八分

民部省
外務省

第千八百九十六

明治十年七月九日第五拾貳號布告

自今外國へ渡航ノ日本形商船ハ大小ノ別ナク國旗ヲ掲揚可致此旨布告候事
但國旗ノ寸法ハ明治三年正月布告商船規則中三種ノ内小形ノ分ヲ可用事

第三項 西洋形船免狀請願規則

第千八百九十七

明治十二年五月廿一日内務省丙第貳拾五號_{府縣海}達

第拾九號ヲ以テ西洋形商船免狀改正公布相成候ニ付自今其免狀ヲ請願スル者ハ其願書ニ左
記ノ件名書相添出願可爲致且從前ノ免狀所持ノ者モ同様ノ手續ヲ以テ免狀書換出願爲致候
儀ト可相心得此旨相達候事<sub>十三年第十號布告ヲ以テ(西
洋形商船)ヲ(西洋形船)ト改ム</sub>
但左ノ件名中詳カナラサルモノハ其項下ニ不詳ト書記シ可爲差出事

- 一 船名 <sub>漢字ヲ以テスルモノ
ハ假名ヲ附スヘシ</sub>
- 一 信號符字 <sub>外國人ヨリ買受ケタル
片及ヒ新造ノ片ハ除ク</sub>
- 一 定繫港 <sub>何府縣何港
何郡何港何國</sub>
- 一 本船管轄廳名 <sub>何府
縣何廳</sub>
- 一 船ノ種類 <sub>蒸氣又
ハ風帆</sub>
- 一 甲板ノ層數 _何
- 一 船體ノ材料 <sub>鐵又
ハ木</sub>

- 一 檣ノ數何
- 一 船骨ノ材料 鐵又ハ木
- 一 綱具ノ裝置 スバルクアリツク
- 一 船尾ノ形狀 ハ方形又ハ圓形
- 一 製造地名 何國何造所等
- 一 製造年月 何年何月
- 一 造船工長ノ氏名 何國何地何某
- 一 船ノ原名 最初製造シタルモノハ其外國文字ヲモ併セテ記スヘシ
- 一 舊船免狀ノ番號 外國人ヨリ買受ケタル片及ヒ新造ノ片ハ除ク
- 一 船主若クハ會社ノ名 船主ハ二人以上ナルモ其總代一人ノ名及ヒ其本質宿所ヲ記シ又ハ會社ハ其社所在ノ地名ヲ記スヘシ
- 一 壹箇年ノ船稅 何國
- 一 量噸甲板最大ノ長 何尺
船首ノ内板ヨリ船尾ノ内板迄○壹噸甲板トハ三層以上ノ船ニ於テハ最下ノ甲板ヨリ第二層目ニ在ルモノ又ニ層以下ノ船ニ於テハ上甲板ヨリトス
- 一 内法リ最大ノ幅 何尺
船幅最モ大ナル部ニ於ケル内板ヨリ内板迄
- 一 艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深 何尺
- 一 量噸甲板下部ノ噸數 何噸

- 一 量噸甲板上諸部ノ噸數〔若シアレハ〕即チ
 甲板間ノ場所 何噸 ○三層以上ノ船ニ於テハ上甲板ト量噸甲板ノ間ノ場所但シ二層以下ノ船ニ於テハ甲板間ノ場所ヲ有セス
- 一 船尾室 何噸 ○上甲板ニ於ケル船尾ノ部ニ於テ設ケルモノ
- 一 圓室 何噸 ○上甲板中央線船首ヨリ船尾ニ至ル中央線〔若クハ中央線ノ近傍ニ設ケルモノ〕ニシテ外圍ヲ回歩シ得ルモノ
- 一 其他ノ場所〔若シアレハ〕 上甲板ニ於ケル船首室艙室厨室浴室等ノ如ク上ニ掲ケサルモノ
- 一 總噸數 何噸
内除去スヘキ噸數
- 一 機關室ノ噸數 何噸
- 一 乘組人常用室ノ噸數 何噸
- 一 登簿噸數 何噸 ○蒸氣船ニ於テハ機關室ノ噸數及ヒ乘組人常用室ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除去シ其殘噸數ヲ以テ登簿噸數トナス
- 一 機關ノ數 一箇又ハ二箇
一箇ノ肘手ニ因リ車軸ノ運轉ヲ起スモノヲ一箇ノ機關ト稱シ二箇ノ肘手ニ因リ車軸ノ運轉ヲ起スモノヲ二箇ノ機關ト稱ス以下之ニ準ス
- 一 公稱馬力何馬力

○第四項 西洋形船大小砲設備心得

第千八百九十八

明治八年五月三十一日第九拾八號布告

第三部 第七編 第三章 第四款 第三節 第四項

海軍官船ヲ除クノ外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨
布告候事

第一條 海軍官船ヲ除ク外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲
口徑四寸以内二門小銃三拾挺設備スル事若シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便
宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 大砲一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス

第三條 船内へ銃砲ヲ設備スル時省使ハ正院へ上請シ府縣ハ內務省へ申出許可ヲ受クヘシ
但人民所持船ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ
其旨內務省へ届出ヘシ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省へ通知スル事トス尤省使ノ分ハ正院ヨリシ
府縣並ニ人民ノ分ハ內務省ヨリ通知スヘシ

第五條 諸省使府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依
ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

○第五項 西洋形船信號

〔第一千八百九十九〕

明治八年九月廿四日第四百四拾四號布告

今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號費用可致ニ付テハ船名信號符字附點ノ儀並萬國船
舶信號書及信號旗共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私有共別冊萬國船舶信號法告諭第
三條ニ照準シ其船證書相副同省へ可申出此旨布告候事

別冊

萬國船舶信號法告諭

第一條 海上ニ於テ用フル普通信號ノ方法ヲ設定スルノ緊要タルハ歐米ノ諸海國之レヲ論
シ既ニ英國政府ニ於テ「インテルナショナル、コード、シクナル」ヲ選定シ以テ刊行シタ
リ是ニ於テ佛蘭西米利堅運國和蘭瑞典魯西亞希臘以太利澳智利日耳曼西班牙葡萄牙巴西
ノ如キ諸海國ノ政府ニ於テモ或ハ之レヲ翻譯刊行シ以テ其軍艦商船及ヒ陸上信號場ニ於
テ專ラ之レヲ用ヒシム因テ今我國海軍省ニ於テモ之レヲ翻譯セシメ萬國船舶信號書ト題
シ刊行シ以テ軍艦及ヒ西洋形ノ官船商船及ヒ燈臺ノ如キ信號場ニ於テ互ニ通信應答ヲ爲
ス一般ノ法トス故ニ此信號書ヲ備フルニ於テハ以後「マルエツト」氏著述ノ信號書ヲ備フ
ルヲ要セス

第二條 此信號法ハ素ヨリ艦船ノ保護及ヒ互ノ通信便利ノ爲メニ設定セル者タルヲ以テ右
諸海國一般ニ之レヲ用フルカ故ニ西洋形ノ船舶ヲ有スル諸省使府縣及ヒ船主ハ篤ク其意
ヲ體シ其船舶ニ此信號書及ヒ信號旗ヲ備ヘ其船長及ヒ士官ヲシテ此用方ヲ習熟セシメ又
以後船長及ヒ士官ヲ選舉スル時ハ此者之レヲ了解シタルヤ否ヲ詳細ニ檢査スヘシ抑此信
號書ノ欠ク可カラサルヲハ既ニ外國ノ或ル信號場ニ於テ海上航行ノ船暗礁ニ觸レントス

ルヲ看出シタルニ因リ直ニ其場ノ士官萬國船舶信號旗ヲ掲ケ以テ其危險ノ事ヲ通知シタ
レ其船此信號ヲ了解ス可キ書ヲ有セザリシヲ以テ之レニ注意セズ遂ニ危難ニ罹リ破船
沈没シタルノ例往々許多有リ豈ニ鑑戒ト爲サハル可カラヌヤ

第三條 船名信號符字願書ノ法

一 今般海軍省ニ於テ船名ヲ指示スル爲メニ必要ナル信號符字ヲ授與セシム故ニ其信號符字
ヲ請求スル者ハ官船ニ於テハ其所轄廳ヨリ左ニ掲載セル甲ノ書式ニ其船證書ヲ附シテ海
軍省ニ出ス可ク商船ニ於テハ其船主ヨリ乙ノ書式ニ其船證書ヲ附シ所轄廳ヲ經テ海軍省
ヘ願出可シ然ル時ハ海軍省ニ於テ其信號符字ヲ其船證書ノ表ニ記入シ授與ス可シ

甲ノ請求書式

當省(或ハ使府縣)所轄ノ漁船(或ハ帆船)何九信號符字點附有之度別紙船證書相副此段及進達
候也

明治 年 月 日

省使府縣長官印

海軍卿某殿

乙ノ願書書式

私所有ノ漁船(或ハ帆船)何九信號符字點附被下度別紙船證書相副此段奉願候也

使府縣管下何大區何小區何町村何番地

華士族平民

明治 年 月 日

何 某 印

海軍卿某殿

前書之通願出候間此段申副候也

使府縣長官印

第四條 萬國船舶信號場 燈臺之レヲ管掌ス

一 前條ノ如ク我國信號場ニ於テモ唯萬國船舶信號法而已ヲ用フルトス然レハ此場ヲ通過
スル内外ノ諸船舶此信號法ヲ以テ其船名ヲ指示スル時ハ之レヲ新聞中船舶報告ト題セル
部ニ記載シ刊行シ以テ普ク世上ニ報告ス可シ又船主ヨリ其航行セル船ニ急用ノ消息等ヲ
送ラントスル時ハ其船名或ハ信號字ニ附シテ其要件ヲ記シ之レヲ電信或ハ郵便ヲ以テ地
方ノ信號場ニ送ル可シ然ル時ハ其信號場ニ於テ其船ヲ認メ次第此信號法ヲ以テ之レニ通
知シ而シ其船ヨリ其應答ヲ要スル時ハ之レヲ船主ニ報ス可キトス

第五條 船名錄

一 此船名錄ハ萬國船舶信號書ノ附録ニシテ艦船ニ授與セル信號符字ト艦名トヲ記載シ以テ
陸上信號場及ヒ軍艦官船商船ノ船長ヲシテ其相遇フ所ノ艦船ニ信號ヲ爲シ及ヒ自己ノ船
名ヲ通知スルノ便ニ供スル者トス

第六條 海軍省ニテ前月此信號符字ヲ授與セル船舶ノ名號ハ後月ニ至リテ之レヲ集メ新聞
紙中船舶報告ノ部ニ記載シ以テ世ニ公布シ諸船長ヲシテ其船名及ヒ信號符字ヲ知ラシム
ルニ供シ又毎年其前年中ノ分ヲ編集シ船名錄増補ト號シテ發行ス可シ

第七條 信號旗及ヒ信號書

一萬國船舶信號旗及ヒ信號書ハ海軍省ニ於テ完備ノ者ヲ下附セシムルカ故ニ船主或ハ船長必ス之レカ購求ヲ願出ツ可シ

旗ノ寸方	旗ノ寸方
小ハ 竪四尺六寸 <small>フイトイナチ</small>	横六尺 竪三尺 横十一尺
中ハ 同五尺	同七尺 同四尺 同十二尺
大ハ 同六尺	同八尺 同五尺 同十五尺

但シ「マリエット」氏ノ萬國海上信號旗一式ヲ有スル船ニ於テハ其旗ノ中ヲ以テ多分此信號ノ用ニ充テ得可ク唯M Q V Wノ旗ト信號示旗トノ五旗ヲ新調スルニ於テハ其便用ヲ得可シ

第八條 海上士官ヲ望ム者ヲ檢査スルノ個條

- 一 檢査ノ要目左ノ如シ
- 第一 此信號法ノ各綱領ヲ了解シ得ルヤノ事
- 第二 旗信號距離信號及ヒ端舟信號ヲ容易且敏捷ニ爲シ及ヒ應答シ得可キヤノ事
- 第三 電信局信號器ヲ以テ信號ヲ爲シ得可キヤノ事
- 一 檢査トハ檢査官ノ有スル信號書及ヒ其雛形ノ旗ヲ以テ士官タランコトヲ望ム者ヲシテ實地ノ施行ヲ爲サシメ試檢スル事ナリ

第九條 信號法

- 一 萬國船舶信號ニ用フル旗ハ十八個ト信號示旗即チ回答旗一個トナリ
- 燕尾旗 一個
- 旂 四個
- 方旗 十三個
- 一 此十八旗ハbヨリW迄ノ子韻符ニ代用ス而シテ此旗二個或ハ三個或ハ四個ヲ聯結シ掲クル時ハ諸語句或ハ文章ノ意ヲ表スル者トス
- 一 此旗旂ノ種類ハ左ノ如シ

- b 燕尾旗 紅ノ燕尾旂
- c 白地ニ紅丸
- d 藍地ニ白丸
- f 紅地ニ白丸
- g 黃ト藍(竪) 方旗
- h 白ト紅(竪)
- j 藍ト白ト藍(竪)

K 黃ト藍(豎)
 l 藍ト黃(四個ノ石疊)
 m 藍地ニ白ノ斜十字
 n 藍ト白(十六個ノ石疊)
 p 藍地ニ白方
 q 黃
 r 紅地ニ黃ノ正角十字
 s 白地ニ藍方
 t 紅ト白ト藍(豎)
 v 白地ニ紅ノ斜十字
 W 外郭藍中郭白心紅方
 信號示旗即チ回答旒 紅ト白ト豎條

一此信號書ハbcヨリ始メテfgmdニ至ル迄旒ノ聯結ノ順次ヲ逐書シタルナリ故ニ信號ヲ爲サントスル其意思ノ文ヲ索メントニハ此順次ニ就テ見ル可シ

第一編
 ① 信號ニテ爲シ得可キ諸般ノ通信及ヒ尋問ノ爲メニ緊要ナル語句及ヒ文章
 ② 地理信號及ヒ數表但シ是レハ現今未タ譯成ニ至ラス

第二編

① 第一編ノ信號ノ類語集ニシテ第一編中ニ在ラサルモノハ伊呂波ノ順次ノ四旗信號ニテ増補セリ而シテ之レヲ前後ノ二部ニ分ツ即チ前部ハ原文ノ翻譯後部ハ我伊呂波ノ順次ヲ逐テ其事ノ種類ヲ區別シテ編集セル者ナリ

② 信號ヲ爲サントスル時ハ必ス此第二編ノ後部ニ就テ爲ス可シ然モ此二部其譯成編集共ニ未タ完備セサレハ假ニ伊呂波順次ノ看出目錄ヲ未附シ以テ第二編ノ代用ニ供ス故ニ此目錄ニ就テ第一編中ヲ索ム可キナリ

第三編
 端舟信號距離信號電信局信號器信號及ヒ佛國葡萄牙及ヒ以太利ノ電信局信號器信號場及ヒ信號場ノ名錄ヲ記載セリ但シ佛國葡萄牙以太利ノ電信局信號器信號場等ノ名錄ハ現今未タ譯成ニ至ラス

第四編
 衝突豫防規則、暴風雨豫報信號、溺者救法立弗布立ノ水路信號等ヲ記載セリ但シ立弗布立ノ水路信號ハ未タ譯成ニ至ラス

第五編
 軍艦及ヒ船舶ノ名ヲ報知スル信號符字ヲ有スル者ノ船舶名錄集ナリ

一萬國船舶信號法ノ最モ稱揚ス可キ所ハ其簡易輕便ナルト區別分明ナルトニ在リ

第十條 信號方法
 一此萬國船舶信號書ヲ以テ信號ヲ爲サント欲スル時ハ其以前ニ「ガフ」ニ上ケル國旗ノ下ニ

必ス信號示旂ヲ掲ケ置ク可シ

一 信號示旂或ハc旂或ハd旂ヲ唯一個用フル時ハ左ノ意ヲ表ス

○ 信號示旂ハ回答旂ナリ

○ c旂ハ 然リ

○ d旂ハ 否

一 右信號ヲ除クノ外總テノ信號ハ二旗或ハ三旗或ハ四旗ヲ以テ爲ス可ク而シテ信號ノ種類ハ最上ノ旗ヲ以テ之レヲ識別セシム

○ 二旗信號

○ 燕尾最上ナルハ注意信號

○ 旂最上ナルハ方位信號

○ 方旗最上ナルハ緊急及ヒ危險信號

○ 三旗信號

○ 尋問、通信、經緯度及ヒ月日時等ノ如キ信號

○ 四旗信號

○ 燕尾最上ナルハ地理信號

○ c q 或ハ f 旂ノ最上ナルハ綴字及ヒ語信號

○ g 旂最上ナルハ軍艦ノ名

○ 方旗最上ナルハ官船商船ノ名

明治八年二月略ス以下

附録 明治十年二月廿七日第貳拾四號布告

明治八年九月第百四拾四號ヲ以テ御國內西洋形船舶普通信號等ノ儀及布告置候處今般右事務農商務省へ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省へ可申出此旨布告候事十四年第四十テ(内務省)ヲ(農商務省)ト改ム

○第六項 小形旅客氣船取締心得書

第千九百一 明治十三年十一月廿九日内務省乙第四拾五號府達

小形旅客氣船往々危害ヲ生シ不容易次第ニ付別冊取締心得書ニ照準各地ノ實況ニ應シ適宜取締取締可相立此旨相達候事

別冊

小形旅客氣船取締心得書

第一條 本船々體及ヒ所屬品ハ必ス左項ニ掲ケタル如ク整備スヘキモノトス

第一 甲板上ニハ其兩側ニ必ス水吐孔ヲ設ケ且甲板面ハ填却ヲ以テ充分ニ罅隙ヲ塞キ水ノ漏泄ナキモノ

第二 甲板ニ設ケタル出入及ヒ荷積口ハ其緣材必ス甲板面ヨリ高キモノニテ風波等ノ際艙内ニ水ノ流入ヲ防キ且之ヲ密閉スヘキ外套ヲ備フ

第三 甲板上船舷ナキモノハ必ス周圍ニ欄干ヲ設ケ其高サ二尺ヨリ低カラサルモノ

第三部 第七編 第三章 第四款 第三節 第六項

- 第四 室内空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設ケルモノハ堅固ナル戸扉ヲ備フ
- 第五 端舟ヲ釣リ得ヘキ船體ニ於テハ必ス之ヲ備ヘ其付属品全備シ不時ノ用ニ適スルモノ
- 第六 舵ハ其取付ケ堅牢ニシテ必ス豫備ノ轉舵索ヲ船尾ニ備フ
- 第七 羅盤及ヒ救命浮子各一個以上ヲ備ヘ其救命浮子ハ人體ヲシテ充分ニ水上ニ浮ミ得セシムヘキモノ
- 第八 相當ノ消防器具ヲ備フ
- 第九 船ノ噸數ニ應シ其量目及ヒ大サノ適合セル鐘及ヒ鐘鎖ヲ備フ
- 第十 揚燈及ヒ信號器ハ總テ其製造規則ニ適合ノモノニテ且ツ舷燈ノ隔板ハ其位置正シク舷ニ裝置ス
- 第十一 汽笛及ヒ號鐘ハ其音響ノ障碍無キ場所ニ裝置シ且ツ號鐘ハ其内徑六寸六分ヨリ小ナラサルモノ
- 第十二 甲板上何レノ場所ヲ問ハス漏水ヲ排出スヘキ汚水唧筒一個以上ヲ備フ
- 第二條 本船ノ汽機及ヒ所屬品ハ必ス左項ニ掲クル如ク整備スヘキモノトス
 - 第一 機關ハ諸部適合ノモノニテ十分ニ整頓セシモノ
 - 第二 水線以下及ヒ其近傍ニ於テ裝置セシ船外ニ通スル管ハ必ス嘴子或ハ瓣ヲ備フ
 - 第三 罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ豫備品及ヒ所屬品ヲ備フ
 - 第四 冷氣器ヲ設クル機關ハ正當ナル驗氣器ヲ備フ

- 第五 汽罐ハ豫テ水試驗ヲ經タルモノニテ平常用フル汽力ニ對シ漸罐ハ其二倍(十斤)ノ汽力ヲ用フルモノハ二十斤)古罐ハ其一倍半(十斤)ノ汽力ヲ用フルモノハ十五斤)以上ノ力ニ堪フルモノ
- 第六 安全瓣ハ每罐火床面積ノ一平方尺毎ニ必ス二分ノ一平方寸ノモノ二個ヲ備ヘ平常用フル汽力ニ對スル重量ヲ定メ内一個ハ外套ヲ備ヘ其外套ハ検査員又ハ其重量ヲ定ムル方法ヲ明カニスル者ノ立會ヲ得サレハ開閉シ能ハサル設ケヲ爲シタルモノ
- 第七 驗氣器驗器驗器ハ時々試驗ヲ爲シ誤謬無キモノ
- 第八 驗水器ハ每罐硝子製ノモノト二個以上ノ試嘴ト兩様ヲ備ヘタルモノ
- 第九 汽罐二個以上ニシテ塞氣瓣一個ヲ備ヘタルモノハ其塞氣瓣ヲシテ各罐ノ汽路ヲ閉塞セシムルニ適スルモノ
- 第十 蒸氣ヲ噴出セシムルタメ必ス排氣管ノ設ケアルモノ
- 第三條 毎年一回以上検査員ヲシテ船體汽機ヲ検査セシメ故障ナキモノハ検査證書ヲ其船主若シクハ船長ニ下附スヘシ但爾後ノ検査以前ニ運航ニ堪ヘサルモノト見認ルキハ其運航ニ堪フヘキ時限ヲ検査證書ニ記載スヘシ
- 第四條 検査證書ハ期限中船内ノ見易キ場所ニ揭示シ旅客等ノ見聞ニ供スヘシ
- 第五條 検査員ハ臨時ニ乗船シ船體汽機ノ整備セルヤ否ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第六條 定時臨時ノ検査ヲ問ハス検査員ニ於テ船體汽機ニ故障アリト看認ルキハ本船ノ運

航ヲ停止シ修繕若シクハ改造ヲ命スヘシ
第七條 乗客ノ員數ハ本船製造ノ摸樣ト通航ノ地景ニ因テ制限スヘシト雖ヒ一坪（六尺四方）八人ヨリ超過セシムヘカラス

○第七項 西洋形船水先免狀規則

第千九百一 明治十一年十二月九日第三拾七號布告

明治九年^{十二月} 第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

別冊

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ^{十四年}第十四號^{第十三號}布告^{農務省}ヲ以テ內務省^{ト改ム}ヲ農務省

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場

ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ同上

第六條 水先人タル者ハ年齢二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ満干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルコトヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス同上

第八條 免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ同上

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ同上

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

シ

第十二條 試験出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスキハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用フル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ同上

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ懸揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超エサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ十三年第三十九號布告ヲ以テ全項改正

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲ケヘシ同上

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗英藍又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ掲示スルコト

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スルコト

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スルコト

第二十一條 各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ

官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ農商務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ同上

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ農商務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ同上

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

水先料一覽表

第壹 東京灣ノ部

發地	著地	風帆船及ヒ海船水先料	標	註
海上ヨリ	横濱港迄	金三圓	水脚一「フット」ニ付	
横濱港ヨリ	海上迄	金三圓	右同斷ニ付	
海上ヨリ	品川碇泊所迄	金四圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	海上迄	金四圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	品川碇泊所迄	金貳拾五圓	一航海ニ付	
品川碇泊所ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	横須賀港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金貳拾五圓	右同斷ニ付	
横須賀港ヨリ	品川碇泊所迄	金四拾圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四拾圓	右同斷ニ付	

第貳 紀伊海峡及和泉灘ノ部			
發地	著地	噸數	標註
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂碓泊所迄	七百五十噸以上千噸迄	風帆船及ヒ漕船水先料 金三圓 水脚一「フット」三付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	海上迄	三百噸以下二百噸迄	右同斷ニ付
大坂碓泊所ヨリ	大坂碓泊所迄	三百噸以上五百五十噸迄	右同斷ニ付
大坂碓泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	五百五十噸以上七百五十噸迄	右同斷ニ付
大坂碓泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	七百五十噸以上千噸迄	右同斷ニ付
第三 長崎港ノ部			
發地	著地	噸數	標註
海上ヨリ	長崎港迄	七百五十噸以上千噸迄	風帆船及ヒ漕船水先料 金貳圓 水脚一「フット」三付
長崎港ヨリ	海上迄	三百噸以下二百噸迄	右同斷ニ付
第四 津輕海峡ノ部			
發地	著地	噸數	標註
海上ヨリ	函館或ハ青森磯船場迄	七百五十噸以上千噸迄	風帆船水先料 金貳圓五拾錢 水脚一「フット」三付
函館或ハ青森磯船場ヨリ	海上迄	三百噸以下二百噸迄	右同斷ニ付
第五 沿海ノ部			
發地	著地	噸數	標註
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大坂迄又兵庫神戸或ハ大坂ヨリ東京灣迄	兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	七百五十噸以上千噸迄	風帆船水先料 金八拾圓 一航海ニ付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣ヨリ	三百噸以上五百五十噸迄	金百圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ兵庫	五百五十噸以上七百五十噸迄	金百八拾圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ直航東京灣	七百五十噸以上千噸迄	金貳百圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	マテ	千噸以上	金貳百貳拾五圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎ヨリ	三百噸以下二百噸迄	金百四拾圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎ヨリ	三百噸以上五百五十噸迄	金百七拾五圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎ヨリ	五百五十噸以上七百五十噸迄	金貳百拾圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎ヨリ	七百五十噸以上千噸迄	金貳百三拾五圓
兵庫神戸或ハ大坂迄	東京灣ヨリ神戸或ハ大坂ヲ經テ下ノ關或ハ長崎ヨリ	千噸以上	金貳百六拾圓
一航海ニ付			

第三部 第七編 第三章 第四款 第三節 第七項			
發地	著地	噸數	標註
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	七百五十噸以上千噸迄	風帆船水先料 金六圓 水脚一「フット」三付
兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	東京灣迄	三百噸以下二百噸迄	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	三百噸以上五百五十噸迄	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	五百五十噸以上七百五十噸迄	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港迄	七百五十噸以上千噸迄	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	千噸以上	右同斷ニ付
一航海ニ付			

兵庫神戸或ハ大坂ヨリ	下ノ開港場ノ外開港場ハ長崎也ヨリ	兵庫神戸或ハ大坂迄	金六圓	右同斷ニ付
			金六圓	右同斷ニ付

- 第一 此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ
- 第二 水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ瀛船帆船ニ係ラス三百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一「フート」ニ付壹圓ノ割ヲ以テ繫泊案内料ヲ拂ハシム
- 第三 此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸郷旅費ヲ包含スルモノトス
- 第四 此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ以テ取極ムヘシ

○第八項 船舶積量測度規則及方法

第千九百二 明治十七年四月廿四日第拾號布告

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

別紙

船舶積量測度規則

- 第一條 凡ソ船舶ノ海軍艦船ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス
- 第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ
- 第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條 瀛船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス
帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ
外車瀛船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七
暗車瀛船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二
機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車瀛船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車瀛船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第千九百三 明治十七年四月二十四日第拾號布達

今般第拾號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム
右布達候事

別紙

船舶積量測度方法

第一條 西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 量噸甲板ニテ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準

ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢船梁ノ弧形ノ三分ノ一下ニテ船

尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ

第一級 量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個

第二級 同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個

第三級 同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個

第四級 同百八十尺以上二百二十五尺迄ノ船ハ十個

第五級 同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ上面

ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板下ノ

深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各

深ヲ等分スヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ船内ノ幅ヲ測定スヘシ

各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル

幅上下兩端ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ

其得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ

當ル面積船首船尾ノ面積ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積若シテヲ加ヘ之ニ分長點ノ間

隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量噸甲板下ノ噸數トス

第二項 最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中央

ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均

ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項 甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ平

均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸

甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ

之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅船首船尾ノ面積ハ二倍シ此合數ニ船

首船尾ノ幅若シテヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其

得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條 機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸

數トス

第二項 機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項 暗車瀛船ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條 甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船首上端ノ内側ヨリ船尾上端ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヲ第一條第一項ニ揭クル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他第一條第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項 船舷上端ノ境線ヲ超エ船室ノ設アルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條 日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ内側ヨリ内側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項 船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

トス

第五條 日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石數トス

第千九百四 明治十七年九月廿六日農商務省第貳拾九號 府へ達

本年第拾號布告船舶積量測度規則制定ニ付在來船舶ノ積量ハ本年十二月限り總テ改測締下候様取計フヘシ
但遠洋航海等ノ爲メ期限内着手難致モノハ歸港ノ際改測スヘシ
右相達候事

○第九項 瀛船公稱馬力算定方法

第千九百五 明治十七年五月廿二日農商務省第拾三號 府へ達

瀛船公稱馬力算定方法左之通相定候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一冷瀛器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ瀛甯吸鏢ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但瀛箭二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第二冷瀛器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ瀛箭吸鏢ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三拾
個ニテ除シタルモノ

但瀛箭二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第三冷瀛器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀛箭吸鏢ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘
シテ相加ヘ其得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但瀛箭二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第四冷瀛器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀛箭吸鏢ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シ
テ相加ヘ其得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但瀛箭二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

○第拾項 船舶明細表造船員數取調書

〔第一千九百六〕 明治八年十月十九日第百七拾九號 院省使 廳府縣へ達

御國內一般官私所有之西洋形蒸氣帆前船舶別表ニ照シ明細書載シ毎年十月海軍省へ可届出
此旨相達候事

但院省使廳所轄ノ官有並ニ管下人民私有ノ分ハ各管轄廳ニ於テ取經府縣所轄ノ官有並ニ
其管内人民私有ノ分ハ内務省ニ於テ取經可届出儀ト可相心得尤別表ノ儀ハ海軍省ヨリ受
取置本年ハ十一月三十日ヲ限り可届出事

別表

船舶畧表

- 一 毎歲十月左ノ表ニ照シ詳細調査シ海軍省ニ報告ス可シ
- 一 新造買收賣却破船修覆 六箇月以上ノ久等ハ其時々前同様報告ス可シ
- 一 里數ハ(海里)尺度ハ我(曲尺)ヲ以テス可シ
- 一 壹噸ハ我百六拾匁斤ニシテ一千六百八拾斤トス
- 一 該船ニ係ル要件ハ記事ノ區ニ詳録ス可シ

船名	原 名
船 主	
船 長	

一 夜 所 費 炭	炭 庫 容 積	裝 帆	桁 數	檣 數	甲 板 層 數	車		氣 罐		馬 力	
						外	内	種 類	數	形	實 用

噸 數	喫 水	深	幅	長	造 製					
					名 機 關	地 船 身 年 月				
容 積	全身重量	船尾	船首	心材 關 サ ー ド ホ ウ ト ノ 上 端 ヨ リ 上 甲 板 梁 材 ビ ー ム 上 端 マ テ 最 深 ノ 所 ニ テ 度 ル	上甲板船ノ裏面ヨリ裏面マテ	喫水線内肋材ノ外邊ヨリ外邊マテ	上甲板ニテ斜檣格 關 ア ボ ス ト ル ヨ リ 後 邊 ノ 裏 面 マ テ	船首材 關 ホ ー ル ス テ ー ヘ ン ヨ リ 船 尾 材 ス テ ル ン ボ ス ト ー ヘ ン		

事記	場定	木	鐵	一
	所航	製	製	夜走力

〔第千九百七〕 明治八年十二月廿三日内務省乙第百六拾九號_縣府へ達
 本年第百七十九號公達御國內一般官私所有ノ西洋形船舶明細表十一月三十日限海軍省へ可
 届出分當省へ可差出ノ處今以何等不申出向_中有之不都合ニ候條船舶ノ有無ニ不關早急取調
 無遲滯可差出此旨相達候事

〔第千九百八〕 明治十五年六月廿九日農商務省第拾壹號_縣府へ達
 五拾石以上日本形廻漕船(解漁船ヲ除キ)員數取調之儀別紙雛形ニ準シ自今每年六月三十日
 分ハ其年八月十五日十二月三十一日分ハ翌年二月十五日限リ當省エ可届出此旨相達候事
 但明治十四年十二月三十一日ノ現在數ハ來ル七月廿日限リ取調届出ヘシ
 別紙

五十石以上百石未滿				
船名	帆別	積石	船主住所	氏名

船名		帆別		積石		船主住所		氏名	
五百石以上千石未満									

十四年第十二
號布告(千八
百九十五)ノ
附録ニ掲出ス

〔第千九百九〕 明治十六年十月廿五日農商務省第拾三號府令達

明治十四年第拾貳號公布ニ據リ自今蒸氣ハ拾噸風帆ハ貳拾噸以下及湖川港灣ヲ限リ運航スル船舶ハ左ノ雛形ニ準シ取調毎年六月三十日ノ現在數ハ其年八月十五日限リ十二月三十一

日ノ現在數ハ翌年二月十五日限リ當省へ可届出此旨更ニ相達候事
但明治十四年内務省乙第拾四號達ハ廢止ス

雛形

西洋形船舶(何月何日)現在員數調

貫籍宿所

船主氏名

船名	定 繫 場	船ノ種類	綱具裝置	船體ノ材料	製造年月	製造地名	櫓ノ數	長	幅	深	總噸數	登簿噸數	馬力

〔第千九百十一〕 明治十六年十一月廿六日農商務省第拾六號府令達
私立西洋形造船所並造船員數等自今左ノ書式ニ倣ヒ毎一年分取調翌年二月限リ當省へ可届出此旨相達候事

西洋形造船所并造船員數等届書式

計合	何艘何噸何馬			何方何圓		何人何人		何箇何所		何年何月
	何噸	何噸	何噸	何方	何圓	何人	何人	何箇	何所	
帆船	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
汽船	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
其他	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
合計	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

備考
每一週年間各造船所ノ廢置及盛衰ノ概況ヲ記スヘシ

○附錄 郵船ニ乘組旅行ノ者船長ニ於テ登記方及海底沈沒船取調方

第千九百十一 明治九年三月十八日第三拾壹號布告
 內國郵船ニ乘組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所並ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告

候事

第千九百十二 明治十三年二月廿七日海軍省乙第四號 沿海府縣へ達
 海底ニ沈没セシ船舶ハ海底ノ淺深ト船體ノ大小トニ由航海ノ暗礁ニ等シキ妨害有之ニ付水路誌記載ノ都合有之候條右沿海ニ沈没船有之節ハ其地位及狀況詳細取調速ニ地方廳ヨリ當省水路局へ可及通知此旨相達候事

○第四節 船長運轉手機關手
 ○第壹項 西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

第千九百十三 明治十四年十二月廿八日第七拾五號布告
 西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通告定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年 月 日 第八十二號同年 月 日 第九十四號同年 月 日 第百五十三號同年 月 日 第百五十七號十三年 月 日 第五十八號十四年 月 日 第十三號同年 月 日 第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス
 右奉 勅旨布告候事

別冊

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則
 此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス
 此規則中內國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩俄噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

十六年切丁第
 廿一號達(二
 千三十四)參

第一條

船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條

免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試験規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條

試験ノ規程ハ第壹號布達ニ據ルヘシ

第四條

高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス
甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條

乙種二等運轉手ノ免狀ハ従前ノ小形船船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ
従前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得
従前授與シタル小形船船長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又従前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ内

本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條

免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條

免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其検査ヲ受クヘシ

第八條

甲種免狀試験課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試験ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條

左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シクハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乗組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長	一名以上
		同 一等運轉手	同
		甲種免狀船長	同
三百噸以上	同	同 一等運轉手	同
		同 二等運轉手	同

一百馬力未滿	同	同	一等機關手	同
一百馬力以上	同	同	一等機關手	同
第二項			二等機關手	同
一百噸以上	內國航船	乙種免狀船長	一等運轉手	同
三百噸未滿		同	船長	同
三百噸以上		同	一等運轉手	同
五百噸未滿		同	二等運轉手	同
五百噸以上		甲種免狀船長	同	同
五百噸以上		同	一等運轉手	同
同		同	二等運轉手	同
二十馬力以上		乙種免狀二等機關手	同	同
五十馬力未滿		同	同	同
五十馬力以上		乙種免狀一等機關手	同	同
一百馬力未滿		若クハ甲種免狀二等機關手	同	同
一百馬力以上		甲種免狀一等機關手	同	同
		同	二等機關手	同

第三項

二十噸 <small>(深船ハ)</small> 以上	同	乙種免狀二等運轉手	同
一百噸未滿	同	若クハ從前ノ小形船船長	同
二十馬力未滿	同	小形船機關手	同
二十馬力未滿	港内若クハ湖川用	小形船機關手	同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ
 前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止、停止ニ係リ受有シ能ハスシテ
 其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ
 各貳圓以上貳百五十拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條

農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ
 又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁
 止スルコトアルヘシ

- 第一 亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者
- 第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害
 ヒ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者
- 第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條

前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條

免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條

免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條

免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ヶ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○第貳項 西洋形船船長運轉手機關手試驗規則

〔第九百十四〕 明治十四年十二月二十八日第壹號布達

今般第七拾五號ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則改定ニ付別冊ノ通試驗規程ヲ定ム
右布達候事

別冊

西洋形船船長運轉手機關手試驗規程

第一條

凡ソ此規程ニ從テ試驗ヲ願フ者ハ受験ノ當日ヨリ三日以前ニ其履歷書及ヒ性行善長ナルノ保證書ヲ添ヘ願書ヲ試驗所ヘ出スヘシ

但シ願書用紙ハ試驗所ヨリ附與スヘシ

第二條

定時試驗ハ内國人ハ毎月第一第三水曜日外國人ハ毎月第二火曜日ヲ以テ東京試驗所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサル時ハ農商務省ヨリ其旨十五日以前ニ廣告スヘシ
十六年第十九號
布達ヲ以テ全條
正改

〔附錄〕 明治十五年十二月二十二日第貳拾九號布達

今般大坂府下へ海員試驗所ヲ設置シ内國人ニ限り毎月第二第四ノ火曜日ヲ以テ試驗執行候條志願ノ者ハ明治十四年十二月第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試驗規程ニ依リ全所へ願出ツヘシ

但開場日限ノ儀ハ農商務省ヨリ廣告スヘシ

右布達候事

第三條

試驗願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試驗料ヲ前納スヘシ

甲種免狀

船長	七圓
一等運轉手	五圓
二等運轉手	三圓
一等機關手	七圓
二等機關手	五圓
乙種免狀	
船長	五圓
一等運轉手	三圓
二等運轉手	二圓
一等機關手	五圓
二等機關手	三圓
小形船機關手免狀	
小形船機關手	二圓

第四條 定日外タリトモ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試験ヲ願フトキハ東京ニ限り司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ許スコトアルヘシ

第五條

船長、運轉手、機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請願スル者ハ本途試験料ノ半額ヲ納

△ヘシ

第六條

甲種免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ニ記載セル各款ニ從ヒ履歴アルモノニシテ其試験問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受驗人ハ十九歳以上ニシテ少クトモ四ヶ年間西洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト見認ムル學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三ヶ年間西洋形船ノ運航ニ從事セシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及對數ノ用方
- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鉞路、航程ニ羅鉞ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法
- 起程、已達、兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ鉞路、航程ヲ知ルノ算法
- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 太陽出沒方位ニ據リ羅鉞ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用方
- 航海日誌ノ記載方

- 索具ノ取付及ヒ取脱方
- 揚帆、卸帆、縮帆ノ方法
- 順轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及ヒ其用方
- 萬國信號法
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 壹等運轉手
- 一等運轉手ノ受驗人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 太陽方位角ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 潮時ノ算法
- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ求ムルノ方法

- 六分儀ノ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ヒ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 羈泊、放泊ノ方法
- 風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ處置スルノ方法
- 出入港運轉ノ方法
- 檣ヲ立ルノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

船長

船長ノ受驗人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題 二等及一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

- 子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
- 各種ノ方法ニ據リ本位羅鍼ノ自差ヲ定メ及ヒ那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
- 難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
- 颶風ノ解明及ヒ之ヲ避ルノ方法

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル汽機製造所ニアリテ少クトモ三ケ年間汽罐及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ比例法
- 機關室日誌ノ記載方
- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 唧筒ニテ排出スル水量ヲ知ルノ算法
- 安全弁ノ種類、効用及ヒ算法
- 汽罐及ヒ機關ノ檢査并處置
- 汽罐各種ノ解明及ヒ其固定法
- 瓣嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 汽罐及ヒ機關ノ損所ヲ修繕スルノ方法
- 汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○沸溢、擦熱ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法

○驗溫器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ

- 面體ノ求積及ヒ開平法
- 汽罐ノ強弱ヲ知ルノ算法
- 膨脹力ノ効用及ヒ其算法
- 指壓器ノ用方及ヒ之ニ據リ實馬力ヲ知ルノ算法
- 螺旋ノ勾配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法
- 製造ノ爲メ汽罐及ヒ機關ニ於ケル局部ノ製圖
- 加熱器ノ種類及ヒ其効用
- 滑瓣及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルノ方法
- 汽罐及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合

第七條

乙種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル各款ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試験問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受驗人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ六ケ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ三ケ年間西洋形航洋船ニアリシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 羅鍼ノ解明
- 揚帆卸帆及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用方
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 一等運轉手
- 一等運轉手ノ受驗人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ七ケ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ四ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス
- 航海日誌ノ記載方

試験問題 二等運轉手ノ試験問題ヲ合セ

- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鍼路、航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法
- 太陽出没方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 羅鍼ニ據リ岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法
- 順轉、逆轉、縮帆及ヒ出入港運轉ノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 萬國信號法

船長

船長ノ受驗人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等及ヒ一等運轉手ノ試験問題ヲ合セ

- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 時辰儀ト太陽高度ニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用法及ヒ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 暴風ノ際船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
- 颶風ノ定則及ヒ之レヲ避ルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ二十二歳以上ニシテ少ナクトモ五ケ年間船用機關運轉ニ従事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル汽機製造所ニアリテ少クトモ三ケ年間汽罐及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ従事シ且二ケ年以上船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 機關室日誌ノ記載方
- 汽罐及ヒ機關ノ検査并處置
- 運轉中汽罐及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全弁ノ種類、効用及ヒ其錘量ノ増減
- 汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 弁閉ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 汽罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
- 沸溢、擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法
- 暖溫器、驗氣器、驗鹽器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニ

アリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ

- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 汽罐各種ノ解明及ヒ安全弁ノ算法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 膨脹力ノ解明及ヒ算法
- 加熱器ノ効用及ヒ其種類
- 汽罐及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合

第八條

小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試験問題ニ應答スヘシ

小形船機關手

小形船機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三ケ年間船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試験問題

- 通常ノ讀書
- 汽罐及ヒ機關ノ検査并處置
- 運轉中汽罐及ヒ機關ニ於ケル注意

- 安全瓣ノ効用及ヒ其重量ノ増減
- 瀧罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 瀧罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
- 沸溢及ヒ擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法

第九條

乙種免狀若クハ從前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一ケ年以上其職ヲ執リシ者ハ甲種ニ於テ同等ノ試験ヲ出願スルヲ得ヘシ

第十條

甲種ニ從テ試験ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時間ト定メ乙種ノ時限ハ三時間ト定ム若シ此時限ヲ過キテ其答ヲ畢ラサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ

第十一條

受験人ハ書籍及ヒ書留類ヲ携帶シテ試験場ヘ入ルヲ許サス

第十二條

船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル算式及ヒ航海表ヲ用ヒテ問題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用セル表ニ限り試験場ニ携帶シ得ヘシ

第十三條

受験人若シ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ授受シ其他如何ナル手段ニ據ルモ出場中他ノ受験人ト往復セシコト發覺スルニ於テハ之ヲ落第者トナスヘシ

第十四條

紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨリ以上ノ誤算アルモノ又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ落第者トナスヘシ然レトモ其誤算問題ノ總數三分一ニ止ルトキハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試験ニ於テ及第者トナスヘシ

第十五條

受験人紙上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ三ケ月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サス又口上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六ケ月以上實地修業セルノ確証アルニアラサレハ再試ヲ許サス

第十六條

受験人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ畢ルトキハ司驗官ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報告スヘシ
農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受験人及ヒ司驗官ノ氏名ヲ簿冊ニ登記シ應等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第五節 海員雇入雇止附人民所有船舶乘組外國人備入解備方

〔第一千九百十五〕 明治十二年二月十九日第九號布告

西洋形船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事第十三號

布告ヲ以テ(西洋形商船)ヲ(西
洋形船)ト改ム以下皆同シ

別冊

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲
ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入証書用紙ヲ以
テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ十四年第四十三號布
告ヲ以テ(內務省)ヲ(農
商務省)ト改ム
以下皆同シ

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月
以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止証書用紙
ヲ以テ雇止証書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ同

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ檢査ニ供シ且其檢査證書ヲ申受
ヘシ十六年第四十五號布告ヲ以
テ本項以下三項ヲ追加ス

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額
ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツハ浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止証書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ貳名以上ノ保證人ト連署シテ當初

十六年第六十
三號公達(千
四百十六)ヲ
以テ手数料納
付方及事務取

取費用交付方
ヲ示シ十七年
歲第十二號
(千五百十六)
ヲ以テ雇入科
目中編入送納
方ノ違アリ

公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ

第五條 雇止ハ雇入地ニ限り行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル
迄ハ雇入期限内ト見做スヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

- 一 疾病又ハ體質衰弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者
- 一 本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地へ歸還セシムヘシ

- 一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者
- 一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ
得ヘシ

- 一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時
- 一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地へ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨリ
發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止証書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ同
但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス
 最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スベカラス
 第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者
 (第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或
 ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收
 メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ
 云フ)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル
 者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百
 圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ
 五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第九百十六 明治十七年三月三十一日農商務省第九號 沿海府縣 滋賀縣 へ達
 客歲十二月第四拾五號布告ヲ以明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則第四條へ
 三項追加相成候ニ就テハ右事務取扱手續左之通相定候條此旨相達候事

海員雇入雇止事務取扱手續
 第一條 雇入ノ公認ヲ與ルニ際シ浦役人ハ左項ニ注意スヘシ

第一 船長、運轉手、機關手、技術免狀ノ有無ヲ檢問スルコト

第二 被雇者ニ於テ最後ノ雇止證書ヲ所持スルヤ否ヲ推問スルコト

第三 被雇者ヲシテ雇入定約ノ旨趣ヲ了解シタルヤ否ヲ推問スルコト

第二條 浦役人ハ船長、運轉手、機關手、技術免狀ヲ檢査シ真正ノモノト認ムルキハ農商務省
 ヨリ發行シタル技術免狀檢査證書ニ該免狀ノ種類及船名、定業港名等ヲ記シ之ヲ交付ス
 ヘシ

第三條 浦役人ハ被雇者ヨリ最後雇止證書ヲ出サシメ其證書裏面へ何年月日何港ニ於テ更
 ニ何船へ雇入トナリタル旨ヲ記入シ且之レニ認印スヘシ但新ニ海員トナリ最後雇止證書
 所持セサルモノハ此限ニアラス

第四條 被雇者中定約ノ旨趣ヲ了解セサルモノアレハ浦役人ニ於テ或ハ之ヲ讀問セ或ハ解
 釋シテ充分了解セシムヘシ

第五條 新タニ海員トナル者ニ雇入ノ公認ヲ與ヘタルキハ其族籍氏名年齢ヲ本籍ノ戸長ニ
 照會シ從前海軍兵役ノ有無ヲ取調ヘ雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ記入スヘシ 十七年第五號省
 達ヲ以テ本條ヲ追加シ茲
 第五條以下順次採下ル

第六條 雇入ノキハ勿論雇止ノキト雖モ其證書ノ寫ヲ浦役場ニ保存スヘシ且雇入雇止事務
 繁劇ノ場所ニ於テハ更ニ海員名簿ヲ備置雇者被雇者ノ住所、氏名、乘組船名等ヲ記入シ他
 日ノ參照ニ供スヘシ

第七條 雇止ノ公認ヲ爲スキハ前定約面ト相違ノ有無ヲ取糺シ若シ當初雇入ノ定約面ト相

違ノ廉有之キハ船内日記簿其他ノ書類ニ據リ雇者ヨリ其事實ヲ證明セシメ海員名簿ニ其旨ヲ記入シテ之カ公認ヲ與フヘシ

第八條 甲地浦役場ニ於テ雇入ノ公認ヲナシタルモノヲ乙地浦役場ニ於テ雇止ノ公認ヲ爲シタル時ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ甲地浦役場へ運クモ一ヶ月以内ニ之ヲ通報スヘシ此場合ニ於テハ甲乙兩浦役場ニ於テハ其雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第九條 雇入雇止證書中被雇者年齢ハ必ス生年月日ヲ記入セシムヘシ

第十條 雇入雇止證書中書損アルキハ必ス正誤セシメ浦役人之ニ認印スヘシ若シ書損甚シク字句不分明ナルキハ更ニ新調セシムヘシ

第十一條 雇入期限内脱船又ハ死者アリシヲ届出タル時ハ雇入證書中事故摘要ノ部へ其事故ヲ記載シ尙ホ其證書ノ寫若クハ海員名簿ニ之ヲ記入スヘシ

第十二條 雇入證書ハ假令ヒ餘白アリト雖モ再度之レヲ使用スルヲ許サス故ニ其餘白ハ總テ斜線ヲ書スヘシ

第十三條 雇入期限内雇者被雇者ヨリ雇止ノ公認ヲ請フモノアル時ハ規則ニ照シテ其事由ヲ查明シ之カ公認ヲ與フヘシ但シ正副雇入證書及ヒ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十四條 雇入期限内ニ雇者變更スト雖モ更ニ雇入定約ヲ爲サシムルニ及ハス然レモ此場合ニ於テハ滿期雇止ノキ雇者變更ノ事由ヲ正副雇入證書若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

第千九百十七 明治十六年十二月十九日農商務省第貳拾號 縣へ達

内國人民ノ備ニ應シ其所有船舶ニ乗組居ル外國人有之向ハ國名氏名并船名船主氏名トモ來明治十七年二月十五日限リ取調當省へ可届出尤自今備入又ハ解備候節ハ其都度可届出此旨相達候事

但備入有無トモ本文日限迄ニ可届出事

第六節 回漕

第千九百十八 明治六年八月九日第貳百九拾貳號布告

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事
一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候キハ其品名ヲ表包之外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之罰金ニ處スヘキ事
一 尋常之品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候キハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之キハ船主會社等之入費ヲ以テ故之如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之キハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險詰合會社之倉庫等ニ於テ見出スルハ之ヲ安全之場所ニ移シ置キ直ニ其管轄處或ハ裁判所ヘ可届出事
但安全之場所ニ之ヲ移ス之費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此ノ危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全之場所ニ保テ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港之上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄處或ハ裁判所ヘ可届出事
但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主之損失ヲ辨償スルニ不及事

一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常之荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘ官官ニ訴ヘ出サルルハ金二百圓以内之罰ニ處スヘキ事

第千九百十九一 明治八年十二月四日第百八拾四號布告

今般廻漕貨物取扱條例左之通相定候條此旨布告候事

廻漕貨物取扱條例

第一條 廻漕貨物ノ荷造リハ濡沾滅損或ハ漏脱等ノ難ヲ防クヘキ様務メテ堅固ニシ其品柄又ハ荷造ノ模様ニヨリテハ錠鎖或ハ封印スヘシ

第二條 穀物鹽類等ノ俵物酒醬液ノ樽物等總テ滅損漏脱シ易キモノハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約定ヲナスヘシ

第三條 船主ハ荷造ノ粗糲ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防キ難シト思惟ス

ルルハ貨主ヘ其趣ヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ托セラルルハ特殊ノ約定ヲナスヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ

第四條 貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又其約定ヲ爲サルルハ濡沾滅損或ハ漏脱等ノ難ヲ運漕中ニ生スルル船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ

第五條 廻漕運賃ハ發船ノ甲地ニ於テ波戶場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ受取ルヘキ適當ノ地ト定メタル場所ヨリ着船ノ乙地ニ於テハ波戶場或ハ其船主ノ倉庫等ノ其貨物ヲ引渡スヘキ適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スルモノニシテ甲乙地ニ於テ其定メタル場所ノ外之ヲ取集及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及ヒ配達ヲモ船主ニ托スルルハ貨主ハ廻漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及ヒ配達賃ヲ拂ハサルヘカラス

第六條 前條乙地ニ着船スルルハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルルハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルル船主ハ其實ニ任セサルヘシ
但其報告スヘキ日時ハ必ラス貨主ノ受取得ヘキ適當ノ時間ヲ以テスヘシ若シ不適宜ノ時間ヲ以テスルルハ之ヲ報告セサルト同般ト做スヘシ然ルルハ之ニ生スル危險損失ハ船主ノ責ヲ免カルヘカラス

第七條 前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルルハ船主ハ之ニ生スル危險損失ハ其實ニ任セスト雖

凡必ス危險損失ヲ生セサル様之ヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲナスヘシ然ルキハ相當ノ倉敷料番人賃其他之ニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂ハシムヘシ

第八條 廻漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運航賃ナルニ因リ其全運航ヲ畢ヘサル間ハ貨主ハ之ヲ拂フコトヲ拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ不足ヲ生スルキハ貨主ハ其全運賃ヲ拂フコトヲ拒ミ得ヘシ然レモ其全量幾百俵何千箇ヲ運送セシムルモ其一俵一箇ニ付運賃幾許ト約定セルキハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數箇數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀ナキヲ以テ之ヲ受取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルモ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘカラス

第九條 船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第二條ニ遵ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ證シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルキハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

但海上難船ノ災厄ニ罹ルモノハ危險受負法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シ此限ニアラス第十條 運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レモ之ヲ乙地ニ於テ受拂フ時ハ其貨物ト引換ヲ以テスヘシ若シ貨物ヲ受取リタル後其拂方ヲ怠ルキハ船主ハ其受取ルヘキ賃額ヘ對シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

第七節 難破船

第一項 內國船難破及漂流物取扱規則

第千九百二十

明治八年四月廿四日第六拾六號布告

內國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

別冊

內國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之モ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可カラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乘組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人数ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出カシム可シ

第三部

第七編

第三章

第四款

第七節

第壹項

千九十五

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシム可シ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシ且便利ノ場所ニ之ヲ置ヘシ尤小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ
第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル証跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡ス可カラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ

入札拂ヒニ爲スヲ得可シ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ証書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシム可シ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲ニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキ其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少キキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキハ第十五條ニ照準シテ處置ス可シ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トス可シ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管廳其外等へ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助入溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必需品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ証書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ船體皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害現場ノ救助方ヲ除クノ外各船ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受ク可シ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得可シ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲ニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳へ差出ス可シ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲メ盡方シテ死傷ニ至ル者アルハ必ス管廳へ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給ス可シ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル証書二通ヲ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長へ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保子置クヘシ

第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ

第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速

カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ

但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ
第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ際無之ハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人へ下渡ス可シ
第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦証文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ニ届出ヘシ

但浦証文中左ノ箇條ヲ載ス可シ

- 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
- 第四 船號及ヒ免狀ノ番號並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
- 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡カシテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管廳ヘ報知ス可シ

第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受ク可シ

但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行發ヲ至急引渡ス可シ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシムヘシ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人カノ豫防ス可カラサルニ出ルコト瞭然明証スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊ニ賣買

スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ託シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十九條 以下漂着ノ部 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出可シ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ摸樣等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所ヘ六十日間張出ス可シ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ二十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與ヘ其現品ハ持主ニ返還スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣却ヒ其代金ニテ受取ルコトヲ得可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與ヘ一半ハ官ニ收ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ

第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分一ヲ見附主ニ與ヘ其船ハ持主ニ返還スル事
但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與ヘ其餘ノ二分ハ官ニ
收ムル事
但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルコトナカル可シ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照
シ浦役人ノ奥印シタル証書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條 洋中ニ於テ難破イタシ桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ
浦役人ヨリ一通リ取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管轄ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本
人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸道ハシ候節ハ第十三條ノ通り追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ
又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第二十九條以下ニ照準シ其代
價十分ノ一ニ過キサル取揚料ヲ遣スヘシ十年第廿九號布告
以テ全條改正

第三十八條 前條ノ場合ニホイテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公
賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ材主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ十一年第三十二號布
告ヲ以テ本條追加

○第貳項 難船救助心得

〔第千九百廿一〕 明治三年二月廿九日布告

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻之通被仰出候間此旨布告候事

別紙 不開港場規則ハ第三編
第壹章第拾貳款ニ出ス

難船救助之事

一難船ニ而困苦之體ニ相違無之節ハ其困苦之輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可遣事
但船ニ乗組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ止宿爲致食料衣服
等迄仕所可遣事

一船之修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可遣事
一乗組人之内溺死之尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所之内都合ヨキ場
所へ埋葬可爲致事

一洋中ヲイテ大船破摧シ乗組外國人之内猶船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハ、早々我船
へ助ケ載開港場へ送届候歟又者其土地支配之者へ引渡其支配之者受取海陸便宜ヲ見計開
港場へ可差送事

一難船漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場之内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛
リ官買之出張ヲ中立差圖可受事

一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成
餘計ニサシ出最寄之開港場へ可送届事

(六百十七)參

一 困難之船隠レ洲等ニ乗懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船滓又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又ハ村方ニ而取捨候トモ何後異存ナキ旨外國人ヨリ横文之書面取置ヘキ事

一 難破之船滓其マ、差置外國人ハ一旦引拂進々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外之モノトモ預リ置クレ候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申間敷彼方ヨリ遮而申立候ハ、其筋ヘ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニ而異論不差起様何事ニモ書面可取置事

一 沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主ヘ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省ヘ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滞留中ナラハ其趣船主ヘ心得置セ若シ船主其他乘組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官ヘ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事ヘ申入置セ而後右區分ノ見込外務省ヘ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官ヘ可相廻事八年第七十號布告ヲ以テ全條改正

一 難破之船具又ハ汐湍之荷物或ハ船滓等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當之價ヲ以買求候儀不苦尤其段可相屆事

一 難船ニ而永々滞留可相成様子ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警衛之モノ可差出事

一 乘組人無之西洋之難破船海岸ヘ漂着候ハ、其様子イサイニ可相屆事

一 總而外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用立候ニ付彼國之文字ニ而爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニ而者後日之證ト難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認右ヘ調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文ヘ調印ハ勿論名面認職候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得事

一 右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省ヘ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場ヘ相屆候上猶又外務省ヘ可申立事右之通

午正月

○第三項 内外船難破及漂流人ニ係ル費用

第十九百廿二 明治四年二月廿九日布告

御國船難風ニ逢海外ヘ漂流致シ外國人ノ救助ヲ受ケ被送還候節ハ到着ノ上開港場ニ於テ一通リ相糺シ其者管轄ノ府藩縣ヘ引渡候間其節迄ノ諸入費總テ引渡受候府藩縣ヨリ開港場管廳ヘ可差出候事

第十九百廿三 明治十年七月廿五日内務省乙第六拾八號府縣ヘ達

日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用向後別紙條目之通區別ヲ立支出相成候條右ニ憑據

可致處分尤モ取扱方ノ儀ハ從前ノ通可相心得此旨相達候事

別紙

一英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及ヒ巡查並ニ區戶長等其場所へ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所タリ但シ難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左ノ通

第一救助人足及ヒ大小船雇賃並沈没荷物引上人足賃

第二船或ハ其破損諸具及ヒ荷物番人雇賃

第三困難船事件ニ相用タル薪炭蠟燭及破船場番小屋取建費其他雜費

第四困難人ニ給セシ衣類及賄料其他諸物品代

第五言語不通ノ爲官員ニ非ラサル通辨人雇料及費用

第六困難人開港地へ發足ノ節荷物運送及途中諸費用

第七困難人溺死シタル時其搜索入費

第八同前ノモノ死傷スルトキ治療埋葬入費

第千九百廿四 明治十二年三月廿六日內務省乙第拾五號縣府へ達

明治十年七月乙第六拾八號ヲ以テ英國難破船救助費支出方之儀相達置候處今般日英兩國船難破救助費償還方ノ議ニ付別紙之通約定書交換相成候條此旨相達候事

別紙

日本政府ニ於テ英國破船人救助ノ爲メ衣類食料旅費或ハ溺流人骸ノ救援或ハ病者負傷者ノ

治療其外死去人ノ埋葬ニ係ル諸入費ハ英國政府ヨリ日本政府へ償還スヘシ英國政府日本破船人ヲ救助スル時ハ日本政府ニテ右同様ノ手續タルヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ何レモ破船又ハ船内物貨ノ回復或ハ其保護ニ係ル費用ハ之ヲ償還スルノ責ニ任セサルヘシ總テ斯ノ如キ費用ハ難ヲ免レタル貨物ヲ以テ右貨物ヲ受取ル節右關係ノ者ヨリ其費用ヲ償却スヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ難船ノ場所ニ出張スル政府ノ官吏警察吏又ハ地方官ノ費用即チ難船人護送ノ官吏ノ旅費及ヒ公信往復費ヲ拂ハサル可シ是等ノ費用ハ右官吏警察吏及ヒ地方官所屬ノ政府ニ歸ス可キ者トス

第千九百二十五 明治十四年九月廿八日內務省乙第拾五號縣府へ達

難破船舶費用償還方ノ儀別紙之通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事

別紙

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フニ決意シ其全權委員トシテ日本國

皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使ジョン・エー・ビンハムヲ之ニ任シ互ニ其委任狀ヲ相示シ其式ノ善良適切ナルヲ認メテ訂約スルヲ左列ノ如シ凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收

得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノカナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ又合衆國市民ノ難破ニ遭過シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上ト同様ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將々合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ這樣ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシテ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス

日本政府ニ於テモ將々合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス

此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス

此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

東京ニ於テ

明治十三年五月十七日

西曆千八百八十年五月十七日

印ハ共ニ朱刷

井 上 馨 印
シヨウ、ヘー、ビンハム 印

○第四項 内外國船難破員數届方

第千九百二十六 明治七年十月三十一日第百四拾號使府へ達

内外國船難破ノ員數届方左ノ通可相心得此旨相達候事

一御國近海ニテ難破船有之節ハ内外國船艦ヲ論セス西洋形ハ端船ヲ除キ大小共日本形ハ漁舟將船ヲ除キ積石五拾石以上ハ左ノ難形ニ照準シ本年ヨリ以後毎壹箇年分ヲ取纏メ翌年二月十五日限り其地方管廳ヨリ内務省へ届出ヘシ

但外國船ハ勿論内國船タリ共難破ノ次第積荷ノ摸樣ニヨリテハ其時々同省へ届出ヘシ

附錄 明治九年八月七日第七拾八號使府へ達

難破船員數取調書ノ儀每一箇年分ヲ取纏翌年二月十五日限内務省へ可届出旨明治七年十月第百四拾號ヲ以相達置候處自今一箇年十六月兩度ニ引分ケ上半年分ハ其年八月十五日下半年分ハ翌年二月十五日限同省へ可届出此旨更ニ相達候事

但本年六月分ハ來九月限取調可届出事

一内國船行方知レサル分並ニ海外ニ於テ難船ノ分等ハ其船主ノ管轄廳ヨリ前條ニ準シ届出ヘシ

附錄 明治十四年五月廿四日第四拾七號使府へ達

明治七年十月第百四拾號第二項但書刪除候條此旨相達候事

但行方知レサル船舶ノ搜索ヲ要スル時ハ其管轄廳ヨリ最寄府縣へ通牒搜索方依頼可致事

一前條同省へ申出有之分ト雖モ壹箇年ノ數ヲ取纏メ届出ル節ハ其數中ニ記載スヘシ

雛形

本貫何々又ハ外國船ナレ

持主 何 某
船長 何 某
外何人乘

帆船又ハ蒸氣船内車又ハ外車

軍艦 何號 木製鐵製
商船 歟 幅 檣數

長 馬力

噸數

何方知レス 何年月日出帆

遭難ノ時 何年月日

遭難ノ地 航海中歟碇泊中歟

難破ノ因由 難風ノタメ歟暗礁ニ觸ル歟

難破ノ景狀 若破皆没歟修繕ニ堪ユヘキ

乘組人及船客ノ死傷 歟或ハ船體破損ノ破損歟

積荷ノ損否 何人死何人傷何人歟

沈没何石歟何石歟何箇歟 本貫何々

持主 何 某

船頭 何 某

外何人乘

何反帆

商船 何丸

石數

以下前同斷

○第五款 航海

○第一節 海上衝突豫防規則

〔第一千九百二十七〕 明治十三年七月十六日第三拾五號布告

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告

候事

別冊

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲)前檣又ハ其前面ニ於テ船體上ニ二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船體上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ椽ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里)ニテ算ス以下之ニ倣ヘ)ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ椽ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ椽ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丁)右舷紅ノ燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風椽ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル椽ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縱ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ヘ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル時及ヒ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球三個ヲ前檣ノ前面ニ於テ其頂部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少ナカラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ

右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ避クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ
右ノ船全ク運行セサル時ハ船燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ
第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルトノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ椽甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最も見ヘ易キ椽各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル椽注意スヘシ
此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面

十四年第三十
四號布告(二
千二百三十
九)ヲ以テ櫛
燈燈製造規
則ヲ定ム

ヲ塗リ且成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船體上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲ケヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周圍一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲ケヘシ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル燈籠ヲ掲クルニ及ハス然レモ他船ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラス

第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨得物ナキ所ニ裝置シ且霧中號角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全様ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ

(甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

(乙) 帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙) 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙) 一舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共航路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ニ限り應用スヘク各其航路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ櫓ト他船ノ櫓ト一直線又ハ始ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我航路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ航路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其航路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ航路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ航路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其航路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其航路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主船長乗組人員各其實ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ干涉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干涉セサルモノトス

罰則十四年第三十三號布告追加

第二十七條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

○第貳節 船燈製造及賣捌

第千九百二十八號 明治十四年八月廿五日農商務省甲第四號布達

本年五月第三拾四號公布相成候ニ付明治九年二月丙第五號内務省達船燈製造及ヒ販賣規則別紙之通改定候條此旨布達候事

別紙

第三十四號布告ハ(二千二百三十九)ニ掲出ス

船燈製造及販賣規則

第一條

船燈燈及舷ヲ稱ス製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之レヲ其管轄廳ヲ經テ當省ヘ差出シ製造免許ヲ乞フヘシ

第二條

當省ニ於テハ其見本ヲ檢査シ製造方法ニ適合セルモノト看認ルルハ製造人ヘ其管轄廳ヲ經テ製造免許鑑札ヲ下附スヘシ

第三條

製造免許鑑札ヲ得タル者ハ其氏名地名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且免許船燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ

第四條

免許船燈製造人改名又ハ轉籍スルルハ其旨管轄廳ヘ届出ヘシ

第五條

製造ノ船燈ヘハ何レモ左式ニ準スル文字ヲ彫刻スヘシ

第何番

何國何郡何地

免許製造人

何

某

第六條

第三部 第七編 第三章 第五款 第貳節 ○第六款

千百十九

船燈ヲ販賣セント欲スル者ハ何レモ其管轄廳へ免許製造人ノ製造セル船燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出其廳ノ販賣免許ヲ受クヘシ

第七條

船燈販賣免許ヲ得タル者ハ鋪頭ニ免許船燈販賣所ト記セル看板ヲ掲グヘシ

第八條

免許ヲ得タル船燈製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受クルニ及ハス

第九條

免許製造人及販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第十條

管轄廳ニ於テハ船燈製造所及ヒ販賣所へ不時ニ吏員ヲ派出シ製造方法ニ照シテ其適否ヲ監査セシムヘシ但シ當省主務ノ官吏ヲ派出シテ不時ニ監査セシムルコトアルヘシ

第十一條

船燈製造方法書ハ商務局ニ於テ刊行シ各地方廳及ヒ免許製造人并販賣人へ配付スヘシ

○第六款 雜

第一千九百二十九

明治十七年三月十日農商務省第五號警視廳 府 縣へ達

街道橋梁車馬行旅宿泊其他運輸營業ニ關スル諸取締規則等施行致候節ハ自今必ス當省へモ

可届出儀ト可相心得此旨相達候事

但從前施行致候向ハ來四月三十日限取經メ差出スヘシ

類本邦法令第四卷 終

正誤

四十二丁 齧頭
 三百五十二丁 同
 三百五十三丁 同
 四百七丁 同
 四百八十七丁 同
 四百八十七丁 同
 四百八十七丁 同
 四百八十七丁 同
 四百九十三丁 同
 四百九十六丁 同
 五百三十三丁 同
 五百六十三丁 同
 五百六十四丁 同
 五百六十七丁 同
 五百八十七丁 同
 同
 五百八十八丁 同
 六百八丁 同

(二千百六十)ノ下(六)ハ(七)ノ誤
 (四百四十)ノ下(六)ハ(二)ノ誤
 (千六百四十)ノ下(三)ハ(二)ノ誤
 (千六百七十三)ノ下(ノ下)衍
 (千六百六十)ノ下(二)ハ(一)ノ誤
 (四百八十)ノ下(四)ヲ脱ス
 (千六百五十)ノ下(二)ハ(一)ノ誤
 (二千二百十)ノ下(五)ハ(七)ノ誤
 (二千二百十)ノ下(五)ハ(七)ノ誤
 (二千二百十)ノ下(七)ハ(八)ノ誤
 (千六百四十)ノ下(四)ハ(三)ノ誤
 (二百五十)ノ下(一)ヲ脱シ(二千二百五十)ノ下(一)ハ(三)ノ誤
 (千七百四十四)ハ(千七百六十三)ノ誤
 (千七百五十)ノ下(八)ハ(七)ノ誤
 (千七百)ノ下(六十)ハ(五十九)ノ誤
 (千七百六十)ノ下(一)ハ衍
 (千五十)ノ下(一)ヲ脱ス

六百二十丁 同 (千七百五十)ノ下(二)ハ(一)ノ誤
 六百三十四丁 同 (千六百五十三)ハ(千七百五十三)ノ誤
 六百四十三丁 同 (千七百六十)ノ下(三)ハ(一)ノ誤
 九百一丁 同 (二千二百十)ノ下(五)ハ(七)ノ誤
 九百十五丁 同 全上
 九百三十五丁 同 (二千二百三十)ノ下(五)ハ(七)ノ誤
 九百四十二丁 同 (第廿八號)ノ下(布告)ハ(布達)ノ誤
 九百八十二丁 同 (二千二百三十)ノ下(六)ハ(八)ノ誤
 九百八十七丁 同 (二千二百三十)ノ下(六)ハ(八)(二千二百三十)ノ下(七)ハ(九)ノ誤
 千六十七丁 同 (二千三十)ノ下(四)ハ(六)ノ誤
 千百十三丁 同 (二千二百二十九)ハ(二千二百四十一)ノ誤
 千百十八丁 同 全上

本文

三十九丁 船船表中六野第一段貳百ノ下石ノ字ヲ脱ス
 百五十一丁 十三行 潰瘍ハ潰瘍ノ誤
 百五十三丁 八行 同上
 二百二十八丁 四行 二十一分ハ二十分一ノ倒植

三百八十一丁 三行 住復ハ往復ノ誤
 六百三十三丁 十七行 第千七百五十八ハ第千七百四十八ノ誤
 六百四十五丁 八行 學業證書ハ卒業證書ノ誤
 千四十丁 十六行 q. d. ノ誤
 千百六丁 十二行 困難人ハ困難人ノ誤
 千百十六丁 九行 始トハ殆トノ誤

明治十七年五月廿九日版權免許

編纂兼
出版人

兵庫縣土族

長尾景弼

府下芝區愛宕山下町
三丁目壹番地寄留

賣 東京銀座四丁目 博聞本社

弘 大坂備後町四丁目 全分社

所 千葉縣下千葉町 全分社
埼玉縣下浦和驛 全分社

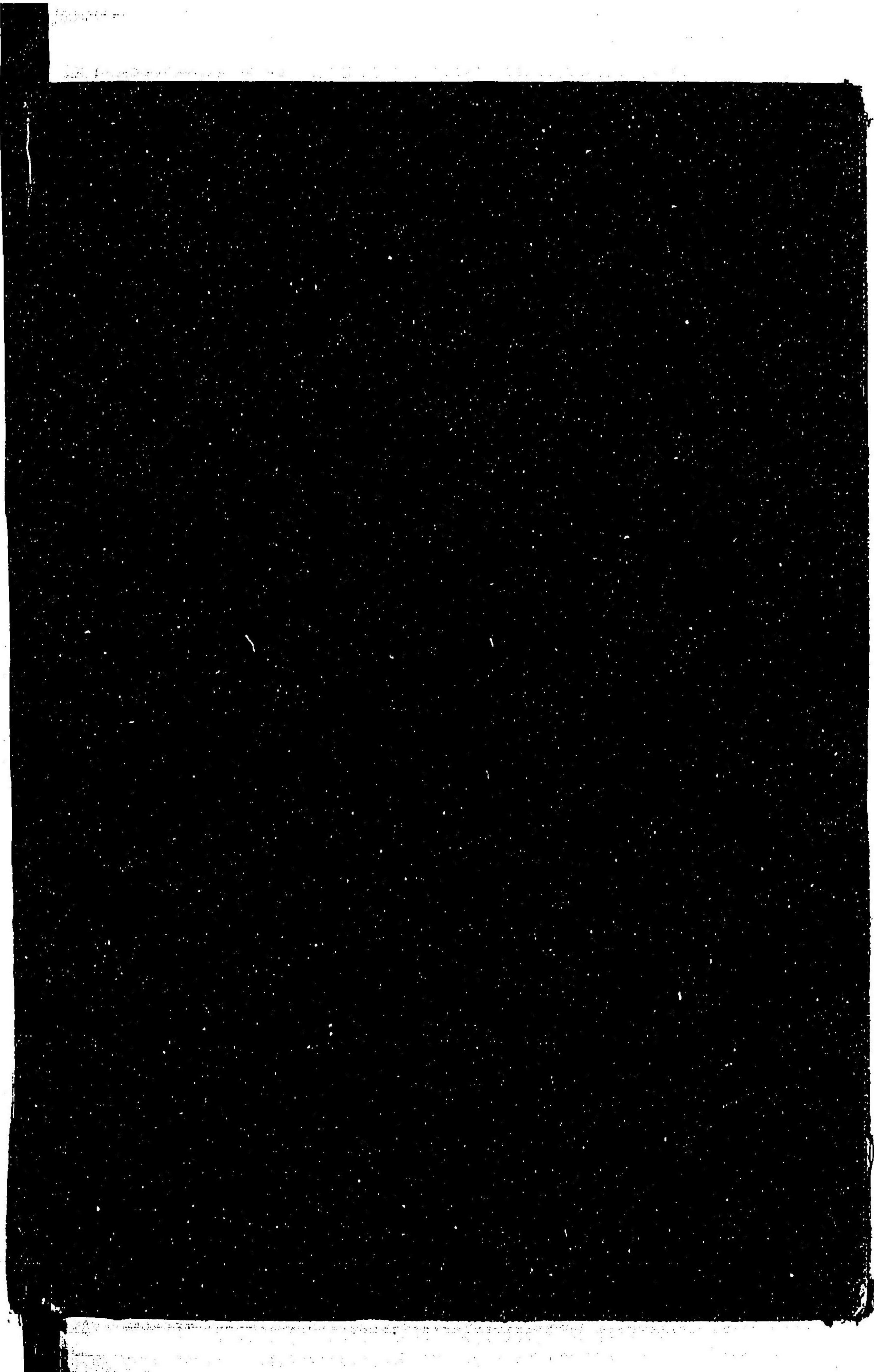
所 捌 賣

越 函 肥 橫 全 全 大 全 全 西 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 東
 後 前 前 濱 全 全 阪 全 全 佛 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
 新 大 大 北 南 本 河 佛 京 芝 通 越 神 橫 本 兩 柴 南 西 南 南 南 南 南 南 南 南 南
 瀧
 古 町
 通 二 番 町 目
 井 常 鶴 丸 柳 前 岡 大 東 村 巖 二 福 石 中 岩 柳 島 松 近 野 須 開 丸 山 小 大 北
 筒 野 野 善 原 川 島 黑 枝 上 三 田 塚 西 屋 川 井 江 原 善 城 林 倉 島
 駒 兵 常 書 兵
 吉 衛 藏 店 衛 衛 七 門 衛 衛 堂 二 吉 郎 太 衛 郎 助 衛 七 間 二 堂 店 衛 衛 衛 衛

武 全 常 野 信 陸 陸 日 筑 肥 全 伊 阿 雲 備 越 加 越 全 越 紀 濃 江 勢 全 尾 駿
 州
 八 水 土 宇 長 仙 弘 盛 向 前 後 伊 豫 阿 雲 備 越 加 越 全 越 紀 濃 江 勢 全 尾 駿
 王 戶 浦 宮 野
 子 上 市 泉 町
 通 目

二 全 柳 小 岩 木 野 澤 遠 山 長 玉 向 坂 團 細 岡 牧 大 本 大 津 泰 新 若 石 片 廣
 見 旦 林 下 崎 田 山 崎 井 井 山 崎 野 橋 多 橋 田 野 瀬
 德 支 堂 八 五 文 兵 正 貞 次 次 萬 喜 謹 左 勝 新 源 陽 々 林 版 藤 文
 次 本 郎 郎 郎 助 衛 介 一 登 郎 郎 郎 吉 門 社 介 平 吉 郎 郎 衛 舍 堂 堂 舍 郎 堂
 郎 店 店 郎 郎 助 衛 介 一 登 郎 郎 郎 吉 門 社 介 平 吉 郎 郎 衛 舍 堂 堂 舍 郎 堂

14
6
17



14.7
17

禁電子式複写

